

3. 地域包括支援センターの運営について

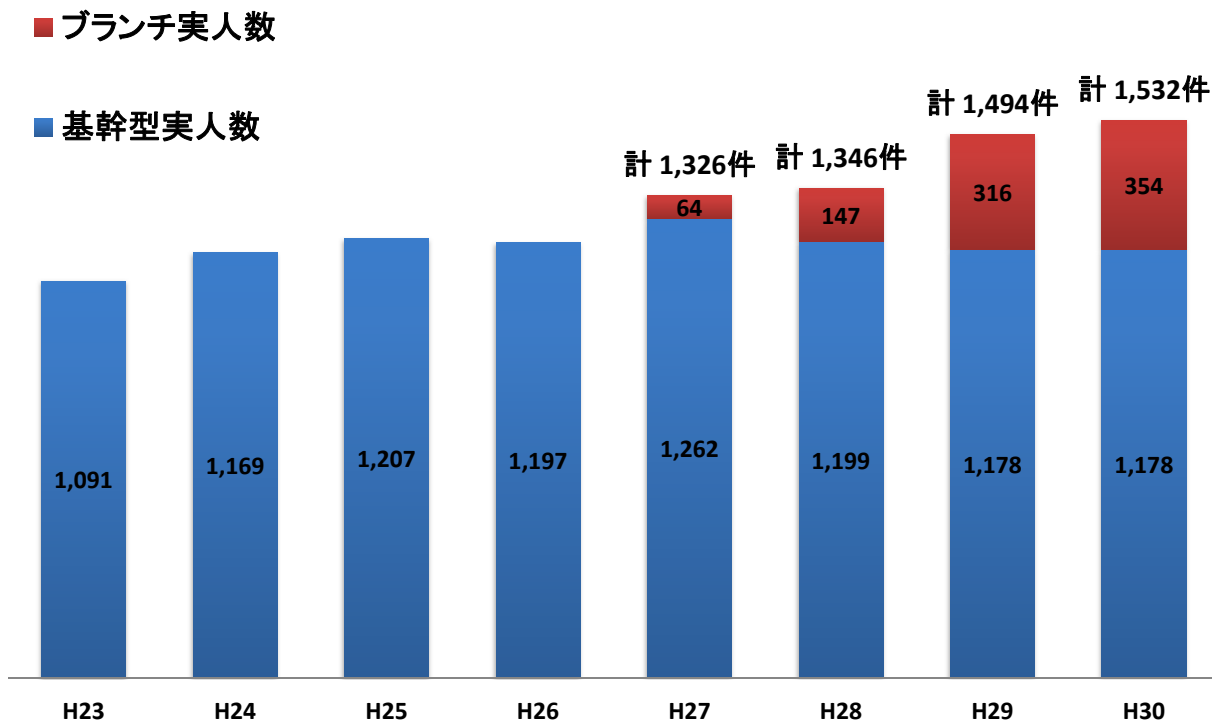
(1) 平成 30 年度の実績について



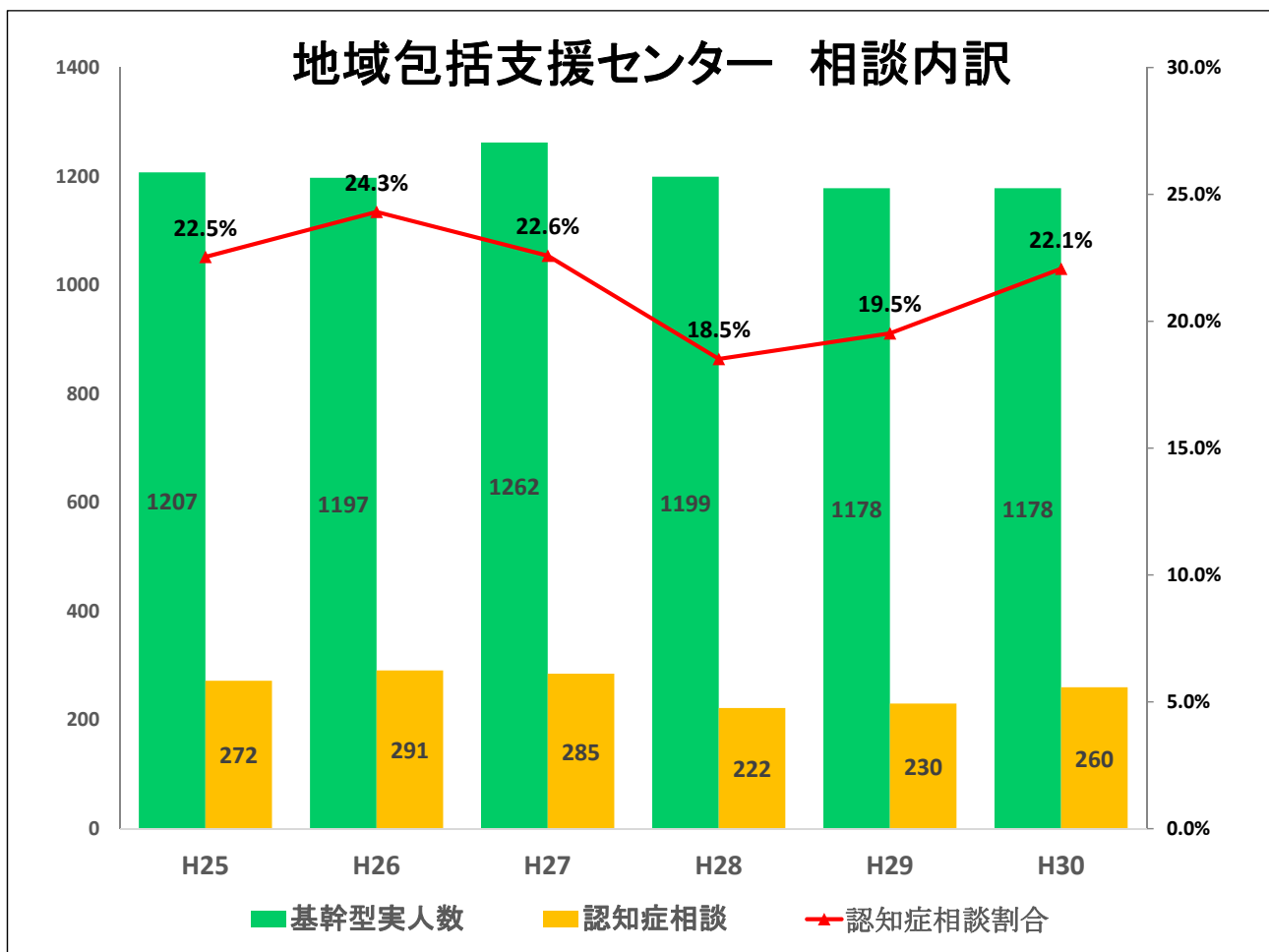
加賀市健康福祉部長寿課

令和元年 6 月 20 日

地域包括支援センター 相談実件数



※H28より基幹型及びサブセンターの集計



平成30年度 地域包括支援センターブランチ相談件数

平成30年度 ブランチ新規相談受付件数集計

単位：件

地区	事業所名	新規相談受付件数 (包括経由)	地区集計	新規相談受付件数 (ブランチに直接)	地区集計
大聖寺	大聖寺なでしこの家	43	79	31	49
	小規模多機能ホームきょうまち	36		18	
南郷	小規模多機能ホームなんごうえがお	17	17	16	16
山代	山代すみれの家	23	43	32	81
	ニーズ対応型小規模多機能ホーム ききょうが丘	20		49	
庄	小規模多機能ホームいらっせ庄	15	15	0	0
勅使・東谷口	小規模特別養護老人ホームちよくし	4	4	1	1
片山津	小規模多機能ホームいらっせ湖城	7	7	43	43
金明	小規模多機能ホームきんめい	0	0	15	15
橋立	小規模多機能ホームはしたて	1	1	15	15
動橋	動橋ひまわりの家	3	3	15	15
分校	小規模多機能ホームいらっせ分校	7	7	9	9
作見	小規模多機能ホームいらっせ松が丘	1	13	24	34
	小規模多機能ハウスさくみ	12		10	
山中 温泉、西谷、東谷	富士見通りお茶の間さろん	29	29	76	76
合計		218		354	

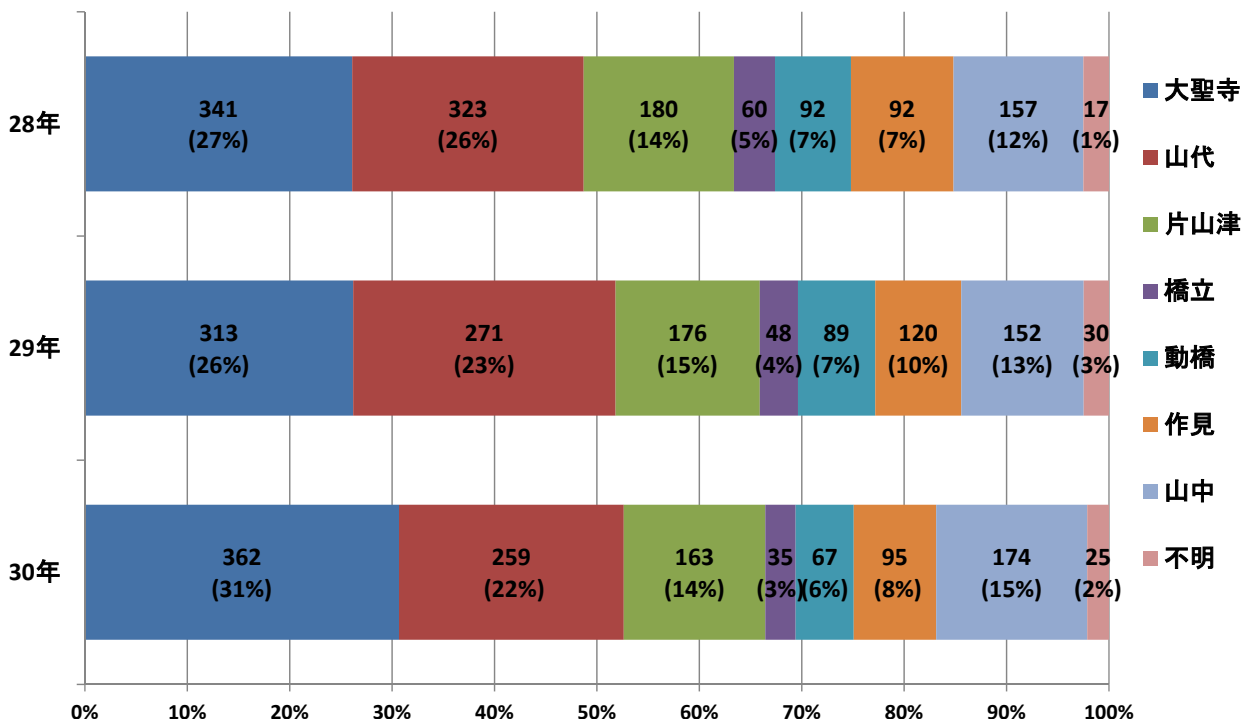
※ブランチ実績「新規相談受付一覧表」より集計

4～12月：ブランチ14カ所の集計(大聖寺2、南郷、山代2、庄、片山津、金明、橋立、動橋、分校、作見2、山中)

1～3月：ブランチ15カ所の集計(14カ所+勅使・東谷口)

参考

加賀市地域包括支援センター初期相談圏域別実件数 (ブランチ相談件数除く)



相談内容の傾向

- 統合失調症や躁うつ病、アルコール依存症等精神疾患を抱えた高齢者の相談が増えている。
- 認知症の高齢者の相談。
- 世帯に支援を必要とする家族がおり、高齢者のみならず、家族支援が必要なケースが多い。(生活困窮、家族が精神疾患を患っている方など)
- 身寄りがない方の支援。

支援していくためには・・・

- 他課や他機関と連携が不可欠。
- 地域包括支援センター職員の質の向上が必要。

地域包括支援センターブランチの設置及び地域福祉コーディネート業務内容

①ブランチの主たる業務

○地域の身近な窓口として基幹型地域包括支援センター(直営)につなぐこと

【事業内容】 地区の高齢者の個別相談、支援、個別の地域ケア会議等

【機能】 24時間365日の対応、必要時の訪問、緊急宿泊対応可能

②地域福祉コーディネート業務の主たる活動内容

○友人、ご近所、世話焼さん、地域団体等の担い手とのコーディネートや個の支援をとoshi地域づくりに繋げること

【事業内容】 地域資源の把握、開発、関係者間の情報共有、交流活動の開催支援

【機能】 高齢者と地域資源をマッチングするためのコーディネート機能

地域の地域福祉活動拠点等後方支援

目指すべき姿

- ①早めのお会いと身近で相談しやすい拠点
⇒地域で身近な相談体制やすぐに駆けつけられる体制
- ②どんな状態になっても地域で暮らし続けられる体制
⇒介護サービス利用有無にかかわらず「柔軟性」「緊急時対応」「訪問機能の充実」が必要
- ③地域での住民主体の生活支援の体制構築
⇒介護問題を地域住民が自身のこととしても捉えられるような、地域全体で支える仕組み、機会の創出(高齢者の社会参加できる人はたくさんいる)

◆地区はそれぞれ、住んでいる人の考えや風習、社会資源が異なる。その特徴を生かし、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるような地域をつくることを目指す。

地域の身近な相談窓口(市内15カ所)

地区の高齢者こころまちセンター をご利用ください

相談を受付し、必要な情報提供を行ったり、市役所内の基幹型高齢者こころまちセンターにつないでります。

平成31年1月現在



大聖寺	大聖寺なでしこの家 大聖寺番場町29番地4 ☎72-1882	橋立	小規模多機能ホームはしたて 橋立町イ乙54番地1 ☎75-7384	片山津	小規模多機能ホームいらっせ湖城 湖城町3丁目125番地 ☎74-8122	金明	小規模多機能ホームきんめい 野田町夕8番地1 ☎74-7401
	小規模多機能ホームきょうまち 大聖寺京町27番地 ☎73-2117	作見	小規模多機能ホームいらっせ松が丘 松が丘1丁目17番地8 ☎72-2050	動橋	動橋ひまわりの家 動橋町イ19番地1 ☎74-1611	分校	小規模多機能ホームいらっせ分校 分校町リ338番1 ☎74-1301
南郷	小規模多機能ホームなんごうえがお 上河崎町才120番地 ☎75-7815	庄	小規模多機能ホームいらっせ庄 庄町ル167番 ☎74-5650				
山代	山代すみれの家 山代温泉ハ74番地5 ☎77-1505	勅使	小規模特別養護老人ホーム ちよくし 勅使町ル75番地1 ☎77-3911				
山中	富士見通りお茶の間さろん 山中温泉白山町ノ14番1 ☎78-2555	<p>市内7圏域それぞれに「地区高齢者こころまちセンター」があります。お近くの窓口にご相談ください。</p>					

◎高齢者こころまちセンター 大聖寺南町ニ41番地(市役所別館) ☎72-8186 ◎高齢者こころまちサブセンター 作見町リ36番地(加賀市医療センターつむぎ内) ☎76-5131

平成30年度 ブランチ連絡会実績

回数	開催日	主な内容	参加人数	
			ランチ	包括
1	4月6日	職員紹介、面接技術研修の企画、ランチ勉強会の企画	24人	6人
2	5月11日	かけはし相談、あんしんメール、意見交換「地域型元気はつらつ塾協力員へのアプローチ」	21人	8人
3	6月1日	Mellowかがの取り組み、ランチ勉強会企画案、意見交換「サークルへの関わりの目的」	26人	8人
4	7月6日	NPO法人かもママとのコラボ企画、意見交換「まちづくり推進協議会との関わり方」	21人	8人
5	8月3日	特定健診未受診者受診勧奨事業、意見交換「警察との関わり方、連携」	20人	8人
6	9月7日	面接技術ブロック研修、意見交換「ボランティアとの関わり方やランチとしての効果」	18人	3人
7	10月5日	アドバイス講座紹介(社協)、意見交換「社会資源マップ作成時の住民を巻き込むポイント」	20人	7人
8	11月2日	新規ランチ(勅使・東谷口地区)紹介、警察との意見交換、ランチ勉強会の企画	21人	8人
9	12月13日	消防からのお知らせ、ランチ勉強会の企画、来年度の委託、相談記録・相談体制	25人	8人
10	1月18日	マイクロアプリ、医療機関からの相談の視点、意見交換「地区広報の掲載の仕方、アプローチの仕方」	22人	8人
11	2月1日	意見交換「ケアパス活動に関わる意味」、ランチの軒下マップ、初期相談の相談票から生活状況を考える	21人	8人
12	3月1日	ランチ勉強会の企画、連絡会・勉強会の回数と体制、実績報告書の提出	21人	8人

* 毎月、ランチ連絡会の後、4圏域でブロック連絡会を開催している。
* ブロック連絡会での協議事項については、翌月のランチ連絡会で報告している。

平成30年度 ブランチ勉強会実績

	日付	講師	内容	参加人数
1	11月1日	講師:岩尾 貢氏 (石川県認知症介護指導者・社会福祉法人共友会理事長)	面接技術研修①「 <u>かかわりとは</u> 」 (相談援助の基本のき) ・相談援助の基本姿勢について ・人と状況の全体性等	43名
2	11月13日	ファシリテーター:中野裕紀氏 蔭西操氏	「 <u>面接技術②(面接技術の基本のき)</u> 」 ・ポジショニングや面接時の態度 ・面接の基本について講義及び演習	33名
3	11月28日		「 <u>面接技術③(面接技術の基本のき)</u> 」 ・インテーク面接について(ロールプレイ)	33名
4	12月10日	講師:地域包括支援センター職員	ブランチ勉強会(理解編)① ・オリエンテーション ・加賀市地域包括ケアビジョンとは ・包括の機能ブランチの役割	29名 (相談支援専門員も参加)
5	12月2日	講師:地域包括支援センター職員	ブランチ勉強会(理解編)② ・介護保険制度 ・介護予防事業 ・相談の流れ	24名(相談支援専門員も参加)
6	1月18日	講師:山越孝浩氏 講師:後藤基裕氏 (加賀市地域福祉コーディネートアドバイザー・全国小規模多機能型居宅介護連絡会)	ブランチ勉強会(基礎編)① ・軒下マップを活用し実際の事例を通して学ぶ ・事業責任者がスーパーバイズできるように勉強会で実施し講師にアドバイスをもらう。	38名
7	2月12日		ブランチ勉強会(基礎編)② ・基礎編①と同様に実施。	28名
8	3月18日	講師:山越孝浩氏 (加賀市地域福祉コーディネートアドバイザー・全国小規模多機能型居宅介護連絡会)	ブランチ勉強会(実践編) テーマ「 <u>地域福祉コーディネートと各協議体とは</u> 」 ・活動報告:橋立ブランチ及び山代ブランチ	27名

* 面接技術研修は、各ブロックでもお互いが講師になり、ブロック勉強会で実施している。
* 地域包括支援センター(基幹型・サブセンター)職員も勉強会と一緒に参加している。

加賀市地域包括支援センター自己評価 (基幹型(サブセンター含む)・ブランチ)

【経緯】

「地域包括支援センター設置運営について」(老老発第1018001号)において地域包括支援センター業務を委託また直営の場合も市がセンターの運営方針を示すことが望ましく、平成28年3月『加賀市地域包括支援センター基本方針・運営方針』を策定。基本方針を自己評価項目に反映した。

【評価目的】

地域包括支援センターブランチ及び地域福祉コーディネート委託業務と基幹型地域包括支援センター(サブセンター含む)業務について、一定の基準にて評価し、その結果を活かしてより良い運営・実践に向けた取組みを推進することを目的とする。

【評価回数】

毎年度1回実施する。

【評価の仕組み】

- (1) 運営内容を確認するための基準チェックシート
- (2) 事業実施方針を具現化するための実践チェックシート

【評価の流れ】

評価結果に関しては、運営推進会議に諮り、地域住民の意見をもらい改善すべき事項については、業務や取組みに反映していく。

運営内容を確認するための主な内容(参考)

〈ランチ〉

①主な基準項目(評価シート1～11)

- ・職員の適正配置(専門職の確保)
- ・提出物の作成と提出状況
- ・緊急時、苦情受付体制整備、個人情報の保護
- ・ネットワーク構築、社会資源の把握と支援
- ・総合相談、介護予防の取り組み
- ・中立・公正性の確保

②シートの構成

- ・11項目27設問で全設問「はい」・「いいえ」で回答
- ・「いいえ」の場合は不十分という自己評価
- ・総評は包括地区担当職員ができているところやプロセスを踏まえ状況や改善策を記入

〈基幹型〉

①主な基準項目(評価シート12～15)

- ・認知症高齢者支援、権利擁護、ケアマネジャー支援
- ・ランチとの連携と支援

②シートの構成

- ・4項目11設問で全設問「はい」・「いいえ」で回答
- ・総評は所長・補佐・係長にて状況や改善策を記入

ランチ(15か所)	
①項目状況	・「いいえ」なし:7事業所、 「いいえ」1項目:5事業所、 「いいえ」2項目以上:3事業所
②主な「いいえ」の項目	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題のまとめ、地区単位の地域ケア会議の開催が出来ていない。 ・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントについて全職員の理解まで至れていない。 ・基幹型職員と協働して地域の課題をまとめられていない。 ・相談実件数が75歳以上の高齢者の1割程度ない。
③総評 (相談実績及び統括表から)	<ul style="list-style-type: none"> ・初期訪問や基本チェックリスト訪問は、対応できる職員を少しずつ増やしランチ全体で対応できる仕組みにしている。 ・地域の身近な相談窓口として認知され、ランチに直接相談する件数が増えている。 ・地域のサークルやサロン、民生委員の会合等出向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる。 ・軒下マップを活用し、本人の「～したい」暮らしに着目し支援している。 ・相談ケースの課題から、地域の居場所など地域住民と共に一緒に考え展開している。 ・地区地域ケア会議を実施しているランチが増えており、地域の人と共に地域課題の解決に向けて取り組んでいる。
基幹型	
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の相談機能の充実は、今後もランチとの体制により進めていく。 ・ランチの活動から地域課題が見えるように、訪問ケースのデータが見える化し、地域ケア会議で返していく。今後も、ランチ、地域と共に、地域ケア会議を通して地域づくりを展開していく。 ・精神疾患や身寄りのない方への支援、世帯員への支援など、支援するにあたり多岐にわたる知識や技術が必要であり、今後も支援の質の向上を図っていきたい。

基幹型

平成30年度 運営内容を確認するための基準チェックシート/評価シート

チェック項目		記入日・担当者		記入日	包括担当名
				平成31年4月8日	谷口所長、西補佐、東出係長
12. 認知症高齢者支援					
「はい」「いいえ」の理由とよりよい取り組み方策					
①	・地域関係者から認知症と思われる高齢者の相談を受け、継続的な支援ケースがある	はい	いいえ	医療機関、ケアマネジャー等の専門機関からの相談や地域住民や民生委員、大家等からの相談も総合相談として対応し、定期的な見守り支援も訪問員により対応している。状況把握は身体・生活能力を表した「生活機能行為表」や本人との関係する人や場所のつながりを表した「軒下マップ」を様式として活用している。困難事例については、定期的な事例検討を行っている。また、認知症初期集中支援チームも設置し、専門医のいるチーム員会議で支援方針のアドバイスがもらえる仕組みとなっている。	
②	・専門機関から認知症と思われる高齢者の相談を受け、継続的な支援ケースがある	はい	いいえ		
③	・認知症高齢者相談に対し、状況を把握しアセスメントのうえ適切な支援を行っている	はい	いいえ		
13. 権利擁護・虐待防止					
①	・通報を受けた場合、通報受理簿を作成し、地域包括支援センターや市役所担当者と連携し、対応記録を整理している	はい	いいえ	権利擁護や虐待支援に関しては包括システムで記録を管理し、経過フォローをしている。相談を受けた後は、虐待リスクについて、「事実確認票」を活用し、緊急性の判断を行っている。週1回定例で虐待ケース検討会を長寿課・包括内で開催し、全相談件数を諮っている。またケースの状況により、医療機関、ふれあい福祉課、地域福祉課等も参加し支援方針の検討、共有、役割分担を行い対応している。ケースからの課題は権利擁護部会へあげ、多職種で検討している。	
②	・権利擁護等に関する相談に対し、適切に対応している	はい	いいえ		
14. ブランチとの連携					
①	・地域の支援関係者に対して、ブランチ活動の理解と利用促進に取り組んでいる	はい	いいえ	地域の各種団体（民生委員、まちづくり推進協議会、サークル、老人会等）へ共に顔を出し啓発の支援を行ったり、周知方法について後方支援している。ブランチ間の連携支援のために、月1回全体で連絡会、月1回の圏域単位のブロック連絡会を開催、事例検討を通じた勉強会を実施している。また、困難事例については、同行訪問と一緒に支援方針を考えたり、事例検討を実施し後方支援をしている。また、包括内で実施しているケース検討の場である「定例会」にブランチ職員も参加できる仕組みをつくった。	
②	・ブランチとの連携のため定期的なブランチ連絡会及び勉強会を開催している。	はい	いいえ		
③	・上記1～11に対して、ブランチの後方支援をしている。	はい	いいえ		
15. 包括的・継続的マネジメント支援					
①	・介護支援専門員等の抱えている困難事例等の相談に対して窓口を設け随時相談している	はい	いいえ	困難ケースや虐待疑いケースについて随時電話、窓口相談に応じ必要時ケース会議を開催している。勉強会は、H27より主任介護支援専門員勉強会、中堅職員研修会の開催を継続して実施している。また、加賀市介護サービス事業者協議会の各サービス種別ごとの連絡会等の企画運営の後方支援も継続しおこなっている。各団体とのネットワークづくりにおいては、ケースを通して民生委員や老人会、地域おたっしやサークル等へ働きかけるよう、助言、提案している。個別地域ケア会議の開催を通して、実際に介護支援専門員が、民生委員と連絡をとったり、民生委員の会合への参加を行っている。	
②	・介護支援専門員等の連絡会及び勉強会の機会を直接開催もしくは後方支援している	はい	いいえ		
③	・介護支援専門員等と民生委員等の地域福祉活動団体等のネットワーク構築のための取り組みを行っている	はい	いいえ		
総評	※全体をとおして要約して記入		平成18年度より地域包括支援センターを直営で設置し、平成27年度より高齢者の身近な相談窓口体制の構築のため委託によるブランチの設置拡充を行い、15か所の設置を行った。基幹型包括およびブランチが取り組みべき方向性を共有するために、基幹型及びブランチの評価項目をはじめ基本方針・運営方針を明らかにしている。今後も、ブランチと地区担当職員より相談機能の強化及び地域福祉活動支援を行い、ブランチの訪問活動から把握した地区の課題が解決できるよう、住民と一緒に考える場の設定を行い、具体的に取り組んでいきたい。また、平成28年度加賀市医療センター開院に伴い、医療と介護の連携をサブセンターで実施し、医療機関からのタイムリーな相談体制になっている。認知症初期集中支援チームの設置、主任介護支援専門員勉強会、中堅職員研修等をとおして専門職の育成支援と認知症ケアパス検討会や介護予防教室等を実施し住民育成をおこなっている。今後は、専門職と地域住民と共に地域包括ケアシステムの構築にむけて強化していきたい。		

ランチ

平成30年度 運営内容を確認するための基準チェックシート/評価シート

チェック項目	地区・記入日	大聖寺地区		南郷地区	山代地区	
		大聖寺なでしこの家	きょうまち	なんごうえがお	山代すみれの家	ききょうが丘
		平成31年3月31日	平成31年2月19日	平成31年4月25日	平成31年3月18日	平成31年1月30日
1. 職員の適正配置						
・ランチは実施要項に示す職員を0.5人以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均1日3時間の業務の実施）		はい	はい	はい	はい	はい
2. 必要書類の作成と確実な提出						
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している		はい	いいえ	はい	はい	はい
3. 専門性の確保						
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている		はい	はい	はい	はい	はい
・市主催の研修に、参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている		はい	はい	はい	はい	はい
4. 緊急時の体制整備						
・夜間・休日、緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようにしている（連絡網の整備含む）		はい	はい	はい	はい	はい
5. 苦情解決体制の整備						
・苦情受付担当者・責任者・第三者委員を利用者にわかるように表示している		はい	はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している		はい	はい	はい	はい	はい
6. 個人情報の保護						
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている		はい	はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している		はい	はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している		はい	はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築						
・ランチ連絡会に参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている		はい	いいえ	はい	はい	はい
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている		はい	はい	はい	はい	はい
8. 総合相談						
・総合相談の実件数が、75歳以上の高齢者数の1割程度ある（基幹型・ランチあわせて）		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談実件数のうちランチ訪問実件数が、50%程度（同行含む）ある		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談延件数のうち訪問延件数が、30%以上		はい	はい	はい	はい	はい
・直接、ランチへの相談件数が開始時より増加している		はい	はい	はい	はい	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上		はい（144件）	はい（80件）	はい（55件）	はい（101件）	はい（152件）
・ランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関につなぐ支援を行っている		はい	はい	はい	はい	はい
9. 介護予防						
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見直しについて説明している		はい	はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）		はい	はい	はい	はい	はい
10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援						
・地域包括支援センターランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている。		はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ランチの所在や役割等を広報している。		はい	はい	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる		はい	はい	はい	はい	はい
・ランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）		はい	はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保						
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている		はい	はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。		はい	はい	はい	はい	はい

ランチ

平成30年度 運営内容を確認するための基準チェック

チェック項目	地区・記入日	庄地区	勅使・東谷口地区	片山津地区	金明地区	橋立地区
		いらっせ庄	ちよくし	いらっせ湖城	きんめい	はしたて
		平成31年3月26日	平成31年4月25日	平成31年3月29日	平成31年3月22日	平成31年3月31日
1. 職員の適正配置						
・ランチは実施要項に示す職員を0.5人以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均1日3時間の業務の実施）		はい	はい	はい	はい	はい
2. 必要書類の作成と確実な提出						
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している		いいえ	はい	はい	はい	はい
3. 専門性の確保						
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている		はい	はい	はい	はい	はい
・市主催の研修に、参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている		はい	はい	はい	はい	はい
4. 緊急時の体制整備						
・夜間・休日、緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようにしている（連絡網の整備含む）		はい	はい	はい	はい	はい
5. 苦情解決体制の整備						
・苦情受付担当者・責任者・第三者委員を利用者にわかるように表示している		はい	はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している		はい	はい	はい	はい	はい
6. 個人情報の保護						
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている		はい	はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している		はい	はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している		はい	はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築						
・ランチ連絡会に参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている		はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている		はい	はい	はい	いいえ	はい
8. 総合相談						
・総合相談の実件数が、75歳以上の高齢者数の1割程度ある（基幹型・ランチあわせて）		はい	いいえ	はい	いいえ	はい
・総合相談実件数のうちランチ訪問実件数が、50%程度（同行含む）ある		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談延件数のうち訪問延件数が、30%以上		はい	はい	はい	はい	はい
・直接、ランチへの相談件数が開始時より増加している		はい	いいえ	はい	はい	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上		はい（26件）	はい（4件）	はい（150件）	はい（38件）	はい（69件）
・ランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関につなぐ支援を行っている		はい	はい	はい	はい	はい
9. 介護予防						
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見直しについて説明している		はい	はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）		はい	はい	はい	はい	はい
10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援						
・地域包括支援センターランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている。		はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ランチの所在や役割等を広報している。		はい	はい	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる		はい	はい	はい	はい	はい
・ランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）		はい	はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保						
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている		はい	はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。		はい	はい	はい	はい	はい

ブランチ

平成30年度 運営内容を確認するための基準チェック

参考資料

チェック項目	地区・記入日	動橋地区		作見地区		山中地区
		動橋ひまわりの家	いらっせ分校	いらっせ松が丘	さくみ	お茶の間さろん
		平成31年3月27日	平成31年3月26日	平成31年3月4日	平成31年3月28日	平成31年3月22日
1. 職員の適正配置						
・ブランチは実施要項に示す職員を0.5人以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均1日3時間の業務の実施）		はい	はい	はい	はい	はい
2. 必要書類の作成と確実な提出						
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している		いいえ	はい	はい	はい	はい
3. 専門性の確保						
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている		はい	はい	はい	はい	はい
・市主催の研修に、参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている		はい	はい	はい	はい	はい
4. 緊急時の体制整備						
・夜間・休日、緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようにしている（連絡網の整備含む）		はい	はい	はい	はい	はい
5. 苦情解決体制の整備						
・苦情受付担当者・責任者・第三者委員を利用者にわかるように表示している		はい	はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している		はい	いいえ	はい	はい	はい
6. 個人情報の保護						
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている		はい	はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している		はい	はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している		はい	はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築						
・ブランチ連絡会に参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている		はい	いいえ	はい	はい	はい
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている		はい	はい	はい	はい	はい
8. 総合相談						
・総合相談の実件数が、75歳以上の高齢者数の1割程度ある（基幹型・ブランチあわせて）		はい	いいえ	はい	はい	はい
・総合相談実件数のうちブランチ訪問実件数が、50%程度（同行含む）ある		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談延件数のうち訪問延件数が、30%以上		はい	はい	はい	はい	はい
・直接、ブランチへの相談件数が開始時より増加している		はい	はい	はい	はい	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上		はい（67件）	はい（22件）	はい（56件）	はい（70件）	はい（124件）
・ブランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関につなぐ支援を行っている		はい	はい	はい	はい	はい
9. 介護予防						
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見直しについて説明している		はい	はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）		はい	はい	はい	はい	はい
10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援						
・地域包括支援センターブランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている。		はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ブランチの所在や役割等を広報している。		はい	はい	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる		はい	はい	はい	はい	はい
・ブランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）		はい	はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保						
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている		はい	はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。		はい	はい	はい	はい	はい

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	大聖寺地区こころまちセンター大聖寺なでしこの家
施設管理者	上出 裕美子
事業責任者	上出 裕美子
ランチ設置年月	平成27年10月

目指す姿	慈豊会の理念「和顔愛語」のもと、大聖寺地区こころまちセンターとしてランチ・コーディネーターの役割をしっかりと自覚して身近な相談窓口としての事業所をめざす。 地域住民から気軽に相談できる事業所、信頼できる事業所でありたい。 助け合い支え合うことの重要性、繋がりの輪の大切さを広めて住みやすい町づくりを目指す。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・サークルの世話役、かがやき予防塾修了生等意欲を持っている人達とともに、大聖寺の活動に参加していきたい。また、ランチで知り得た情報は民生委員や区長とも共有し予防支援に繋げていく。	・かがやき予防塾生の事業所訪問にてランチの地域における役割等を知ってもらった。また、高齢者が地域で暮らし続ける為の地域の支援が大切になってきている事も伝える事が出来た。 ・かがやき予防塾修了生やサークルの方々に事業所にきてもらったり、介護予防教室に参加してもらい、話しやすい関係が持っている。	・大聖寺ランチきょうまちとMeiLoかがとともに、これまで訪問する中で感じる課題（大聖寺には男性の出向く場所が少ない）について話し合いを行なった。その後、ランチだけでなく、大聖寺に住む民生委員や商店の方、既に他地区で活躍している男性などを巻き込んで、「大聖寺の課題」や「大聖寺にあったらいいなと思う社会資源」を話し合う「大聖寺仕合せ座談会」を開催した。	・元気はつらつ塾や各サークルの方々、かがやき予防塾生とこれからも交流を深めて、困り事や問題点など身近な相談窓口としてランチ活動があることを知ってもらうことは良い。	・ランチ活動で、地域の抱えている問題を運営推進会議で発信し、参加者の意見を聞いていく。また、事業所に来ているかがやき予防塾修了生やサークルのお世話役さんにも、大聖寺に住んでいる課題や「あったらいいな」という意見を聞く。それらの意見を「大聖寺仕合せ座談会」でもフィードバックし、大聖寺の課題整理に繋げていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・ランチ内で事例検討するだけではなく、地域の各種団体も巻き込み、フォロー体制をどうして行くのか、社会資源をどう活用していくかの意見をもらい、それを生かした話し合いが出来る。	・地区の全サークル訪問をしたことにより、区域ごとの困り事を知る機会が持てた（困り事は、地域マップに記入した）。また、サークルの人達にはランチとして訪問している中で感じる課題を共有し、今後も一緒に地域を支えていこうというような話し合いができた。	・民生委員や住民からの相談も増えた。そのなかで特に「閉じこもりがち高齢者（特に男性の）の相談」「買い物に行けない高齢者の相談」「風呂に入れていない高齢者の相談」が多いという現状課題を民生委員と確認した。	・住民としても、独居高齢者は風呂の問題、受診の問題に交通手段の問題がある。バスが出ていても停留所まで行けないという課題を感じる。	・サークルへ参加した時の相談や民生委員からの相談内容をまとめ、「大聖寺仕合せ座談会」にも活かしていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	日ごろから民生委員や医療・福祉関係との親睦、交流を持つことで協力体制を築いていく。	・大聖寺地区の見守り座談会に全3回参加して、話し合いをすることで、民生委員と顔の見える関係を持つことができた。その結果、民生委員から直接、一人暮らしやもの忘れのある方の相談を受け、徐々に身近な相談の場所になってきている。	・病院からも直接訪問依頼が増えた。訪問依頼があったケースは、訪問後に病院へ状況報告することで、連携する事が出来た。 ・普段より付き合いのある方々からの紹介で、新たな団体（舞踊やリズムダンスのボランティアの方、老人会、学童の方々）とつながりを持つことができた。	・住民として、ランチが、退院後の状況確認や見守り活動などを行っていることを初めて知った。	・見守り座談会には継続して参加して行くことで、民生委員や区長、まちづくりの方々と顔の見える関係作りを行なっていって行く。顔を知ってもらうことで、相談しやすい関係になる。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・大聖寺圏域の京町とランチと協力し、これまで関係のあるサークルやサロンだけでなく、新たなサークルにも顔を出して見え合い見守りの連携に向けた関係作りを行っていく。 ・サークルに出向き、特徴を捉えることで、サークル参加を望んでいる人に対して訪問時に紹介できるようになる。	・きょうまちランチと協力し大聖寺のサークル、サロンに顔を出すことができた。顔をだすなかで、参加者の声から、男性の参加がどのサークル、サロンも少なく、男性の集まりやすい場所がないか・等の話があった。 ・各サークル、サロンを知る事で引きこもりや総合事業の対象者を紹介する事が出来た。	・地区のサークルを回り、参加者や活動の特徴を知ったり、ランチ活動を知ってもらうことが出来た。 ・精神面での不安があり、閉じこもりがちの方に地区でのこころまち塾を紹介し、参加する事で他者と体操やレクリエーション、会話等で気分転換を図る事が出来ている。 ・各サークルとも男性参加が少ないことが課題となっており男性が気軽に外出して行ける場所等を地域の男性の方と一緒に考える「大聖寺地区仕合せ座談会」を立ち上げ第1回目の会合も開いた。	・男性は好きな事や興味があることでなければなかなか出向いていかない。（お酒とかマージャン、将棋等）大聖寺地区の特徴としては個人個人が昔から謡曲や能、仕舞、詩吟、尺八等の文化的なものを教えている方も多い。	各サークルとも男性参加が少なく、男性が気軽に行ける場所等、地域の男性の方々と一緒に考える「大聖寺地区仕合せ座談会」を重ねていく。
5 地域福祉コーディネーター業務について	・ランチで関わった方々の軒下マップから地域の社会資源や地域の協力員をその都度地図に記入し、資源マップを作成していく。社会資源マップを活用して、高齢者が地域で暮らし続けて行けるよう支援していく。 ・運営推進会議の際に、ランチ活動について、参加している方々と話し合う機会を設ける。参加者にとってもランチが身近になり、また参加者からも意見を今後の活動に活かす。 ・地区広報も活用し、地域に活動を周知していく。	・サークル、サロンの拠点を地図に記入した。 ・運営推進会議では訪問件数等の報告は出来たが、具体的に地域の困り事問題点等を話し合う事は出来ていない。 ・地区の広報には一度は載せてもらい、大聖寺地区の高齢者こころまちセンターの存在を知ってもらう事は出来たが活動内容、役割等は十分周知しきれていないので引き続き発信していく。	・まちづくりの方から「ランチの広報は一度だけでなく、何度も載せたほうが良いので、もっと積極的に声かけて欲しい」という前向きな意見をもらうことができた。 ・中堅者向け研修に参加した職員の社会資源一覧を軒下マップにおとし、大聖寺ランチなでしこの家の社会資源マップを作成した	・コーディネーター業務としての事例を話してもらうことでランチとしての役割を少しは理解出来た。	・地域おたっしやサークルやはつらつ塾などの予防事業以外に、職員で役割分担し身近に個人でおこなっている趣味サークルや商店、銀行などの情報収集をおこない、以前作った資源マップよりもより具体的な社会資源マップを作成する。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	小規模多機能ホーム きょうまち
施設管理者	西垣 直子
事業責任者	岡島 進
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	『自分のため 誰かのために 持てる力を発揮できる町 大聖寺』を目指して、地域で活動されている方達（近所の高齢者、サロンやサークルの活動者、民生委員、ボランティア、ケアバス劇団員）との接点を持ち、ランチ事業所と関係を構築していく。きょうまちスタッフ全員が地域で活動されている方達から認めてもらえるように、まずは挨拶を積極的に行っていき、町のどこで見かけても声を掛けあえる仲間作りをしていきたいと考えている。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「きょうまち」近辺（鷹匠町、福田町、本町、中町、五軒町、仲町等）の町のキーパーソンを把握し、地域での活動の際に、相談しやすい関係になる（資源マップを作り、視覚で把握できるようなツール作成に取り組む）。 ・職員全員が顔なじみとなるように日頃からの挨拶、顔出しを行い、町の情報や相談が入る関係の住民を1～3人増やす。 ・前年と同様に交流の場として「寺子屋きょうまち」の年間計画、茶話会の企画を立て、かわらばんを各町の民生委員に配布し周知を図っていく。 ・電話相談の受付の際に焦ってしまう事があるため、対応のマニュアルの作成、見直しを半年毎に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近辺のキーパーソンの把握は、ランチ利用者の個別ケースから軒下マップに記入する事が出来ている。しかし、地域の資源マップとしては記入する事ができていない。 ・顔なじみの関係はこれまでの関係で作る事が出来ているが、町の情報や相談件数はまだまだ少ない状況がある。サロンへの継続訪問必要と思われる。 ・「寺子屋きょうまち」の開催周知がやや遅れている状況があった。民生委員に参加促しをしたが、タイミングが合わない状況があった。 ・電話対応マニュアルは電話横に相談受付票を設置し、そこに注意事項等を記載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ全体会での取り組みで、事業所の軒下マップを作成した事で、これまでの関わりのあった方の把握を事業所スタッフ全員で確認する事ができた。 ・近隣住民にきょうまちの存在を尋ねた所、身近な相談窓口になっているという言葉が聞ける事ができた。また、包括やケアマネさんから、何かあれば「きょうまち」にかけてと言われてかけてこられる方も増えたと感じた。 ・「寺子屋きょうまち」を通じ、新たな民生委員や住民とのつながりを持つことはできなかったが、これまでのつながりを継続する事はできた。 ・電話相談票にしっかり記入し、担当者に引き継ぎが出来ている状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組む事が沢山あるので的を絞ってみては？ ・スタッフ全員で取り組むのは大変ではないか？ （周知方法、記録の共有等） ・「寺子屋きょうまち」の声かけをしてもらい参加させてもらった。抹茶を入れるという役目をもらう事や参加者に喜んでもらえたという事がうれしかった。また、機会があったら教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の軒下マップを作成し、地域の協力者をスタッフの誰がみてもわかるようにする。 ・ランチについての学びを深める勉強会企画を2名1組みで立てる。どんな事を学び、考えたかを記録する係、議題を進行する係を決めて、スタッフ会議の時間を活用し年12回実施する。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で、ランチ活動について学ぶ機会を作る（スタッフ会議の15分程） ・きょうまち近辺の集まった情報から大聖寺地区、またその地区ならではの課題の把握をする。課題の整理をし、かがやき予防塾修了生や、シニア活動応援Mellow加賀と連携を図っていく。シニア活動応援Mellow加賀と交流し、地区の課題を発信する機会として、ブロック連絡会を活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ会議を活用して学ぶ機会が、現状報告会となっており、学ぶ所ことまでできていない。 ・大聖寺地区の課題の一つとして、男性の活動場所や出場所がなく、自宅から外に出る事が少ない事が分かった。 ・Mellow加賀との連携をするためにMellow加賀を知る機会をブロック連絡会で行った。活動状況を知る事で利用につながる相談を持ち掛けやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回同様、現状報告会となっている。一部のスタッフ以外はボランティアとの接点が少なく名前も把握しにくい状況がある。 ・Mellow加賀との協働企画として、シニア活動応援事業として、「仕合わせ座談会」を開催する事ができた。参加者の意見も盛んにみられた。また、Mellow加賀のちょこっとボランティア活用相談をし、ちょこっとボランティアの接点を持つ事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Mellow加賀のちょこっとボランティアについて、どんな事をするのか聞きたい。 ・傾聴ボランティアできょうまちに参加させて頂いている。利用者の対応も含め、地区の事を話す機会を1年に1回でもできたら。（以前は傾聴のあり方等の話し合いをしていたと思うので） 	<ul style="list-style-type: none"> ・寺子屋きょうまちのイベントに参加している、各種団体リストを作成する。また、団体の方がこられた際に、同意を頂き、名前と所属がわかるようにネームプレートを作成する。 ・現在、きょうまちに来ている地域の方の名前を把握する。また、地域の方から名前を覚えていただけるように、スタッフ顔写真、会話のきっかけになる事柄を明記した掲示板を作成する。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のケースを通じて各町の民生委員等との顔の見える関係を継続していく。まだ顔の見える関係が出来ていない区長、民生委員、町の協力者にも運営推進会議（年6回の内3回は）に参加してもらい、ランチ活動について知ってもらおう。 ・軒下マップを利用し、共通する町の協力者や団体を把握する機会を年2回持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の参加に、他地区の民生委員に声をかけ開催する事ができた。ランチ活動も把握して頂き、担当地区の利用者について相談を頂ける事もあった。 ・事業所の軒下マップの作成が出来ておらず、運営推進会議での確認はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議（年6回の内3回）に各町の民生委員に参加してもらった目標であったが、年間1回のみ参加であった。民生委員会長には、参加時にランチの活動報告を行っている。 ・事業所の軒下マップを作成している事を、運営推進会議メンバーに報告し、地域の資源や人を追記していく事をお伝えした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の意見にもあったが、民生委員との接点を持つ機会として、運営推進会議の参加に声をかけてみる事は大事だと思う。 ・事業所の軒下マップに個人名を記す時は、本人の同意を得て記すんですね？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善計画が計画倒れとなっている。事業所の年度計画を立案後に民生委員や、協力者にアポイントをとり、運営推進会議に参加をしていただけるように計画する。 ・かがやき予防塾の担当、おたっしやサークルの担当、おいでサクラの担当、元気はつらつ塾の担当と役割を決める。各種団体との接点を持つ意味を各々考え、半年毎に自分達が立てた目標に対して達成度を確認する
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「寺子屋きょうまち」の年間計画を立て周知することで、地域住民や地域おたっしやサークルメンバーと協働作業をする機会を持ち続ける。まだ交流のないメンバーと顔なじみになるために、同地区ランチ2か所合同で、元気はつらつ塾、大聖寺の全サークル、おいでサクラに出向き交流する機会を作る。 ・顔なじみの関係を作ることで、各サークルの参加が難しくなった方の把握や、周りからみて心配な方の把握、さりげない訪問が出来る関係を作っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大聖寺地区高齢者こころまちセンターなどでこの家と合同で、おたっしやサークルへ顔出しをし、ランチの活動や、チェックリスト訪問、地域のネットワークの大切さについて周知する事ができている。 ・各サークルとのリーダーとの接点を持つ事ができ、何かあれば連絡を取る事が可能となった。ただ、リーダーからの連絡は上半期中は1～2件だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期で訪問する事が出来なかったサークルや、継続的に顔出しをしているサークルへのアプローチを行う事が出来た。おいでサクラへの顔出しはやや少なくなっている。 ・各サークルのリーダーからの相談はなかった。休みがちな方へのアプローチについては、リーダーから連絡を入れているとの事を確認する事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大聖寺地区のサークル巡りに関しては、ランチが協働して行っている事はお互いの事を知る機会でもあるので、いい事だと思う。今後も大変だろうけど、継続できればいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区おたっしやサークル約40箇所へ2回目の訪問企画を大聖寺地区高齢者こころまちセンターなどでこの家と合同で立てる。 ・おたっしやサークルとの接点を持つ理由をスタッフと共に考える。関係が出来た後、つながった後はどうするのか？勉強会を月1回開催し、近況を報告し記録していく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・大聖寺地区住民が生活を送る中で活用している資源を事業所内で地図化していく。例えば運営推進会議（年6回の内3回）で資源についての意見をもらう。資源を知り、活用することが出来るように、スタッフ1、2名で訪問し顔のみえる関係を作る。 ・出会いから専門的な対応が必要になるまでの関わりの経過をみんなで把握できるように、事業所内で事例検討を半年に1回行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にて活用できる資源の確認をするため、参加者に資源の発見や把握の促しを行なったが、新たに地図に表記する事は出来ていない。 ・現存の資源や人に対して顔の見える関係をイベントを通じ継続する事ができている。 ・事例検討ではなく、事例の紹介とその時に活用したサービスや資源をスタッフ会議にて伝達した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にて資源の意見はあまり頂けず、地図化をする事は出来なかった。軒下マップへの記載は出来たが、その資源や人に対して顔の見える関係は一部スタッフのみだった。 ・年間を通じて事例検討ではなく、事例紹介として、ランチ利用者がどのような生活状況だったか、その生活の中での心配事に対して、活用できる資源を確認する機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大聖寺の資源は、年々少なくなっているようで寂しい。どんどん住みにくくなっているように思う。高齢者にやさしい活用できる資源があればいいのだけど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として接点をもっている資源を、軒下マップとして作成する。月1回更新、見直しを行う。 ・自分自身の軒下マップを作成し、地域の協力者の発見に心がける。半年毎に、どれだけ関わりがもてたのかを振り返りする。目安（1名/半年）

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	南郷地区高齢者こころまちセンター
施設管理者	南出 明子
事業責任者	南出 明子
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	『安心して暮らしていく為に、家族のように1つの輪になる』 そのためには、地域との関係作りでランチの存在を知ってもらう活動や、地区の皆さんが集まれる場所作りに取り組んでいく。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・今後、黒瀬町・保賀町・中代町の方々に会う機会を増やし、南郷地区全域に相談窓口であることの知名度を高める取り組みを行なう。具体的に、各サークルやサロン、はつらつ塾の担当者を決め2ヶ月に1回は訪問し、各町の老人会や婦人会にも出向いていく。	・各サークルの担当スタッフは決めたが、2か月毎の訪問は出来ていない。老人会や婦人会に個別ではなく南郷地区敬老の集いを通して「まちづくり協議会」組織の各町区長・老人会・民生委員・青年団・婦人会の方々と、参加者である高齢者の方々にもランチ機能を説明する機会を設けてもらっている。また地区防災訓練参加時には、地域の方々と消防団の方々から気軽に声をかけていただけようになり知名度の高まりを感じている。	・2ヶ月毎ではなかったが、地区内のサークル・サロン・元気はつらつ塾へ訪問することは出来た。なかでも南郷町のサークルへ事業所の登録者と共に出席した際に、「地域としても一緒に見守りしていくよ」「継続して地域おたっしやサークルも受け入れていくよ」という、心よい言葉もいただけた。1人1人の関わりを通し、地域の方々に理解を深めていただくようにしたい。	・中代、保賀町にも回覧板はまわっているが興味がないとなかなか見ないもので、老人会の総会や地区会館の催事に参加することもよいと思う。 ・実際に介護相談する人は女性が多く、介護する世代の女性の会合（婦人会等）に出向き、相談できる場所をわかってもらえたらよいと思う。	・保賀町と中代町で知名度を上げる取組みとして、介護予防基本チェックリストのハイリスク対象者以外にも二次予防事業対象者宅に伺い、訪問機会を増やしていく。 ・実際に、介護に携わる機会が多い女性の団体（婦人会や保健推進員）の会合でPRしていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・運営推進会議の中で、地域のニーズや課題を確認し担える役割や活動を地域の参加メンバーの方々と一緒に考え「地域ケア会議」開催を目指していく。課題は高齢者のことに限らず、南郷地区として話し合っていく。	大雨による避難勧告等の自然災害を含めて防災に関することが課題になっており、運営推進会議で南郷町の取り組みを報告していただいた。会議メンバーより、小学校通学路の見守りやおたっしやサークルへの送迎について課題報告があり、地区の課題を相談する場であることの理解に繋がられてきている。	・特定した地域の方の「地域ケア会議」は開催出来なかったが、ランチで相談対応した内容や傾向を運営推進会議で説明を行うことは出来た。地域の取組み事項として防災対策は、事業所の防火訓練に防災士・防災リーダー・近所の方に参加していただき、実際に2階へ避難することから、一般家庭での避難方法を検討する機会にもなった。	・町内おたっしやサークルで防災士として防災に関する話と自分の身内で1人暮らしで認知症の方を介護している話をされ好評だったので、他町のサークルでも話してきたら、何かの参考になるのではないかと相談を受けて、サークルリーダーさんに繋がったことがあります。いつどのような災害に出会うか、そして認知症のことも気になることなので、みなさん興味をもっていただくと思えます。	・運営推進会議であがった地域の課題やニーズを把握していき、社会資源マップ作成につなげていく。 ・事業所の防災計画作成する上で、実際の避難訓練に地区の防災士や防災リーダー、近隣の方々に参加していただき、一緒にいろいろなことを考え取組みネットワーク構築に繋がりたい。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・個人の軒下マップ作成していく中で、重複して聞く人や場所へ出かけ、地域の中で顔の見える関係作りを行いネットワークを広げていく。	・軒下マップ作成を通じた取り組みは出来ていない。ネットワーク作りでは、民生委員やはつらつ塾協力員から近隣者の相談や、地域の方が橋渡し役となり家族からの相談内容を繋げていただけたケースもある。 ・医療機関へは、ランチで関係している方々の情報提供も行っている。	・町によっては、軒下マップに重複して聞かれる地域の方が相談仲役となり、相談窓口へ繋ぐ役割を担っていただけている。介護事業所や医療機関とも相談対象者に関し、情報提供したり必要に応じ情報共有を行っている。ボランティア活動については、かがやき予防塾参加者や修了者が地区内では少なく交流会や連絡会に担当スタッフが参加しているが一緒に活動していくことになかなか繋がらない。	・ちょぼろ隊交流会で隣家が気になる状況になっても、どう支援してよいか悩むという内容があった。支援が必要と「見えているけど出来ない」「どこに繋がっているかわからない」という話をきくこともある。そのような時は身内でなくても、市役所やランチに相談してもよいのか。	・はつらつ進捗会議の報告を運営推進会議で行い、地域の事業として意見をいただき、地域課題やニーズの把握に繋げ、また新たな情報や意見をいただく場とし関わりについて見直す機会にしていきたい。またその内容を職員会議で報告し、事業所として情報共有していく。 ・ちょぼろ隊交流会に参加し、どのようなことが課題やニーズとしてあるのか把握していく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・スタッフ全員がはつらつ塾や地域おたっしやサークル等に参加し、どのような介護予防の取り組みを実施しているかを知り、ランチで出会った方に説明できるようにする。参加の際には事前にリーダーと連絡をとり、慣れないスタッフも仲間に入りやすいように役割を担うことで、地域の方々とコミュニケーションを取りやすく工夫していく。	・限られたスタッフしか参加出来ていない。事業所利用者と一緒に地域おたっしやサークルに参加したことで地域と繋がっていることの意味を理解することが出来た。またチェックリスト訪問対象者がおたっしやサークルに参加している姿を見ることで軒下マップの位置づけを理解することにも繋がり、同様な経験ができるスタッフを増やしていきたい。	・基本チェックリスト訪問を担当しているスタッフはおたっしやサークルやはつらつ塾に参加し、説明したり紹介もしやすくなっている。参加する時には事前に連絡し、慣れないスタッフも参加しやすくしている。	・地区の各会合等で介護の話が出ると「なんごうえがお」という言葉が聞かれるので、かなり知名度は高くなっていると思う。毎月回覧板で「なんごうえがお通信」を目にするので、何か相談しようと思った時に電話番号も記載されているのでよいと思う。	・スタッフ全員が、地域の介護予防に対する取組みの実際を知るために、担当制とし3カ月毎にサークル・サロン・はつらつ塾に参加できるように、勤務表に印をつける。 ・基本チェックリスト対象者の訪問時に「できる力（趣味や楽しみ等）」に視点ももち、そこから介護予防（ボランティア活動や種々の教室紹介）に繋がれるようにしていきたい。
5 地域福祉コーディネーター業務について	・軒下マップを使った事例検討会を重ね、どのような役割や関わりができたかよいのかを話し合い、コーディネイト業務の理解を深めていく。	・事例検討会の実施に至っていないが、認知症ケアパスやかがやき予防塾の担当スタッフを固定することで、継続的に地域の方々と話し合いを重ねよう取り組むのかを考え深めている。	・事業所として軒下マップを使った事例検討会は出来なかったが、基本チェックリストに関わった方や認知症ケアパスやかがやき予防塾担当スタッフが各自で事業責任者に内容報告し振り返りを行い、業務内容の理解を深めている。介護相談対応は事業責任者が行っており、今後対応可能なスタッフを増やしていきたい。	・町や地域として見守りやご近所として支援している方の情報は民生委員さんが把握していると思う。 ・事例検討会という仰々しい形ではなく、○○のような相談があり○○のように対応しました」という報告でもよいと思います。そこから地域の支援アイデアや資源情報がもらえたりもすると思う。	・相談内容の報告を運営推進会議で行い、どのような相談がありどのような対応を行ったのかを知っていただき、その中で地域の社会資源の情報やアイデアをいただけるようにしていく。 ・コーディネーター業務の中で特に介護相談や基本チェックリスト訪問の対応で課題になったことを、職員会議で振り返り理解や知識を深め事業所全体で「考える力」を強めていく。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山代地区高齢者こころまちセンター 山代すみれの家
施設管理者	古井 正美
事業責任者	直谷 麻衣
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	山代という地域の中に根付いた事業所になる事で、「相談しやすい場所」として位置づけられるであろう。多くの人たちとつながりを持った事業所になり、どのような方法であれ、自分たちが直接関わったり、出掛けたりしなくても、自然と地域の問題、課題、楽しい事、嬉しい事、素晴らしい事、困っている事などいろいろな情報が舞い込んでくる事業所でありたい。その中で「人と人とをつなぎ合わせられる場所」になればと思います。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 出来る限り会場を広くして、「ラジオ体操に行きたい」という気持ちが損なわれないようにしていきたい。 ランチに来る方々の現状は職員がしっかり受け止め、かつ、3区以外のランチ担当エリアの方々の気持ちも大事に受け止めていく意識を持ち、ランチから声掛けしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操に参加する人が多くなっている。場所が狭いが参加者で、畳コーナー等を利用し場所の工夫をしている。参加者が多いことで嫌がる声は聴いていない。参加者の人の広がりを感じる。 3区の人だけでなく、他の区の人とは友人との参加が見られる。現在の参加者から誘い参加している人が多くなっている。また、ランチとして定着してきたことと「山代地区における行事」や「山代地区をよくする会」等から「山代すみれの家ランチ」が身近なところになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操について、昨年と同様、新規の方が増えてきている。3区以外の方も参加し、毎朝職員との挨拶も出来ている。 「山代地区をよくする会」、ききょうが丘ランチと合同運営推進会議を行なったことから、住民と一緒に地区の事を考え、関わりを持つことが出来たと感じる。 ランチという認識を持つ方が増えてきたこともあって、「オレンジカフェすみれ」やラジオ体操などを通して、地域の方の見守りの姿勢、支えあいの精神が出てきていると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操に参加している方々は、たかが10分ではあるが、満足していると思う。イメージが違ったら来ないだろう。ただ「せっかく来るのに、もう少し何かして欲しい」「あと5分あったらいいのに」という声をラジオ体操参加者より聞いている。また、ラジオ体操参加者より「ちょっとした体操など出来たらいい」という提案があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操の主となるメンバーや声のかけやすい人から、「自分たちがしたい事、ラジオ体操の時間の活かし方」などを見つける事が出来る機会を仕掛けていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 相談者一人というのでは何事も参加しにくいので、職員等が同行する等工夫をすることで、地域のサークル等に入りやすい環境づくりをする。 茶話会や「オレンジカフェすみれ」に利用者や地域に住んでいる認知症の方、障がいの方でも気軽に参加できるような雰囲気作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操後の茶話会（1日、15日に実施）については、地域の人から新規の方に積極的に声掛け、誘っている。 月2回であっても気楽な憩いの場になっている。 サロンや地域おたっしやサークルを相談者に紹介するときにはランチ職員も同席し、安心して参加できるようにしている。 「オレンジカフェすみれ」は毎月行っている。小規模の利用者も数名参加しているが、カフェの場が落ち着かず、安心して参加できる状況にはなっていないため、今後工夫していく。 南陽園とのコラボから、障がい者だけでなく、子どもの参加もあり、高齢者だけでなく様々な世代との交流が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々相談の中から生活状況確認や実態把握がうまく出来ていないと感じる。地域の方が何を求めているのか、もう少しデータ化されるとよい。 「山代地区をよくする会」の中では、住民の立場から課題を具体化できてきた。 「オレンジカフェすみれ」では、毎回ボランティアを依頼すると、「自分たちの出来る事なら」と積極的に手伝ってくれる。またボランティアとおそろいで利用者数名にもエプロンを用意し、小規模すみれの利用者が出来る事を見つけ、役割を持つことで、充実感ももてる良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 茶話会は月2回だが、毎日のようにラジオ体操後に誘い合って、近所の喫茶店でおしゃべりする機会が多くなった。 地域の人たちと利用者を平等に見ていきたいが、認知症の人や利用者は敏感だと思う。簡単に誘えないと感じている。声の掛け方も考えているけど、本当にどのように対応したらよいか分からない。 ラジオ体操の場面で2、3名ずつのグループがひそひそ話をしている様子がある。その様子から、何か悪口を言われているのではないかと探ってしまうのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人やすみれの家の利用者の様子を見ながら、地域の方々はこの先のことを自分事として考え始めているものの、どう接していけばいいか「認知症の方への接し方」が難しいと感じている。今後は、認知症の方の生声や講義など通して認知症について知る機会を作ったり、認知症本人との交流の場を考えていく。 「オレンジカフェすみれ」の役割分担を今一度考え、継続していく方法を考える。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップの作成を通して、本人とのつながりを途絶えさせないよう、またそのつながりを再構築出来るように、今後も「すみれの家」や「オレンジカフェすみれ」の場を通して、実現させていく。また、これまで来られていない新しい人に来てもらえるように声掛けしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 途切れてしまった関係性は中々取り戻すことができていない。しかし「ラジオ体操」「オレンジカフェすみれ」「山代地区をよくする会」「山代おしゃべりサロン」など地域の活動の場に参加し、自然と情報が入ってくる関係性ができてきた。 3月から「オレンジカフェすみれ」が毎月行われ、催し物やランチに対する楽しみが増え、より一層好奇心をもって話しかけてこられる。民生委員やサロンなどにチラシを配り、あまり外へ出れない人や社会活動できない人たちにも紹介できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 山代には多くの地域ケア会議やサロンが立ち上がっている。たくさんあり職員も把握しきれない。 「オレンジカフェすみれ」をより多くの方に周知出来るように、ご近所や民生委員やボランティアの方々にお知らせした。 「山代地区をよくする会」が順当に進められていることで、関係機関との人間関係が出来てきた。 軒下マップを書き、つながりの中で見守り体制がとれるようになってきたが、広がっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「山代地区をよくする会」があまり地域に周知されていない。もっと多くの方が参加出来たらよいと思う。 積極的に自ら地域に出掛ける人たち、昔から地域に根付いた人などは、「向こう3軒両隣り」の精神があり、あいさつや気配りが出来ているが、アパートの人や地域に関係性の薄い人などはつながりが持たない。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在のマップを利用し、より分かりやすい社会資源マップへと作り上げていく。 「オレンジカフェすみれ」をもっと周知出来るように、今年は市内のケアマネに知らせしていく。 知っている民生委員とは関係性が保たれているが、知らない人も多いため、今年は今まであまりかかわったことのない民生委員との話し合いの場を持っていく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者だけでなく、他職員のことを地域の人に覚えてもらえるように、サロンや地域おたっしやサークルなどは担当制にして、参加出来るようにしていく。 ・「オレンジカフェすみれ」は地域の人と一緒に企画や運営をしていきたい。また、高齢者だけでなく、子ども、障がい者等色々な人との交流を多く持っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンや地域おたっしやサークル訪問については担当制にしたが、十分に参加できていない。しかしラジオ体操に参加している人の顔触れが広がるにつれて、地域の人とつながりを持つと考える職員が増えている。 ・「オレンジカフェすみれ」をすることで、手伝いなど住民の人たちから積極的に「～してあげるよ」といった声が聞こえるようになってきた。地域の人々のパワーに支えられ、職員も一緒に作りあげたいという気持ち出てきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンや地域おたっしやサークルに殆ど参加出来なかった。 ・不安や心配を抱えるようになった時に、「山代すみれの家」がランチとしての相談場所だと周知出来てきたためか直接相談が増えている。 ・「オレンジカフェすみれ」は多くの人に参加してもらっているが、参加者が固定してきていると感じる。閉じこもりの人や障がいの人、介護を受けている人など、誰もが参加できるように、もう少し幅広く声かけしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしで、なかなか地域の人と関わろうとしない人を把握している。「オレンジカフェすみれ」に、知り合いが誘ってみると言っている。そのちょっとした誘いが必要だと感じている。 ・地域の人の中に、私は「自分の夫がこんな病気を持っているのよとオープンに話をしておくの。特に認知症など隠したがるけど、もっとオープンになればいいのよ、そうすると、どうにか見てあげたいという人も出てくれるわよ」と前向きなことをいう方がいる。みんなで声かけしていく地域になると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当制にしても、サークルやサロンに出かけられない為、今年度は1.2ヶ所を決め「すみれの家ランチ」として関係性を深めていく。その中で介護サービスの利用につないだ人や継続訪問している方などを「オレンジカフェすみれ」や「山代ふれあい会」などのサークルを紹介していく。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人が参加しやすくなるよう、すみれの家の玄関前でラジオ体操を試みる。 ・「わたしの暮らし手帳」を地区の方々に書いて頂き、今知り合った人たちのなじみの生活やこだわりなど聞いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日に、玄関前でのラジオ体操を2回実施できた。好評だったが、玄関前までの移動で時間がかかり、定着できていない。 ・「オレンジカフェ」の開催日に、「わたしの暮らし手帳」を参加者に書いてもらったが、どれだけ書いたか、書いてみてどうだったかなど感想を聞けていない。このノートをうまく活用できるようなフォローが必要と感じた。 ・地域の行事や店、サロンなどに出かけることが、山代すみれの家自体が身近な地域の事業所とし位置づけられ、結果的に、「個の相談」が入ったときも、積極的に協力してくれる。軒下マップが活かしやすくと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービスなどに安易につなげようとせず、継続的な見守りや訪問を行い、更には、地域おたっしやサークルやサロンに出向くことで、ランチとの関わりが「個の相談」にも活かされている。市ではなく直接ランチに相談が入るようになった。 ・ラジオ体操に参加の方々の地域資源を聞く機会がなかった。来年度こそ「わたしの暮らし手帳」フォローアップ編を行い、山代すみれの家独自としての地域資源の幅を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山代すみれの家の職員は、地域の人一人一人に気持ちよく声をかけているし、声をかけてもらって嬉しい。 ・一度説明をしたものの地域の方は「わたしの暮らし手帳」の存在を忘れていた。手帳自体をまだまだ知られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方々と関わる機会が多くなってきている。ボランティアや世話焼きさん、ラジオ体操に参加している方々との交流も増えてきているので、今まで作った社会資源マップを活かし、更に広げる意識をもって活動する。 ・把握した地域資源に対し積極的に見学などに伺い、知識を深めていく。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	ニーズ対応型小規模多機能ホームききょうが丘
施設管理者	鹿野 久美
事業責任者	鹿野 久美
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・山代地区の為に何かしたいと意欲のある住民が地域で活躍できるよう、一緒に取り組んでいきます。山代の人たちがここに住んで良かったと思えるような街づくりを住民と共に目標をもって目指していき、できることから一緒に頑張っていきます。 ・いつでもどんなときも立ち寄りやすいランチ事業所として身近な地域に存在し続けられるよう、みんなに優しく明るく安心できる場所になります。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「お抹茶カフェいっく」や法話を通して地域住民が介護予防拠点を利用する機会があり、参加者から日々の暮らしについての悩みや地域の気になる事に関する相談を受けることがある。住民にとって身近な相談窓口機能を充実するため、参加者の名前を覚え、アンケート調査を実施し住民の声が直接届く工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査等を実施できてはいませんが、特にお抹茶カフェや介護予防教室の時、参加者から相談や情報提供を求められ、対応している。ランチ職員が積極的に参加者の名前を覚え、挨拶からのコミュニケーションやそこから生まれる頼ったり頼られたりする関係の構築を図りたい。具体的に、アンケート調査や名簿等の活用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との普段の会話から、地域の気になることやご自身としての悩みなど聴く場面がある。対応するだけでなく、それぞれの職員が積極的に地域の人とコミュニケーションをとる姿勢がもっとできるとよい。また、具体的な相談や話したことをランチ内で共有できる機会が持てなかったため、住民から直接相談がどのような内容があったのかを全体として把握するまでに至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お抹茶や法話や色々な行事に参加するようになって、以前より事業所としての敷居の高さは感じていないが、ききょうが丘がランチで、相談できる窓口として気軽にできるということは一部の人しか知らない。もっと周知するべきである。 ・チラシなどがあれば家に貼ってもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の関わりから地域支援に向けて働きかける役割の意識化など小さなことの積み上げを職員同士が確認し合える様、連絡会の後にランチミーティングをする。 ・お抹茶カフェいっく、介護予防教室の際に相談窓口の紹介やランチの活動報告なども実施する。チラシの配布や講座の後にランチの紹介を口頭で伝える。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現在つながりのあるサークルやサロンは継続して参加し、それ以外のサークルやサロン（むくげの会、きらきらサロン等）に参加していく。目的としては地域のサロン等の活動を知ること、相談対応時、相談者のニーズにあった情報提供ができるようにする。また、そこに参加している人同士の繋がりを理解し、山代の地域の在りようを感じることにする。 ・軒下マップを活用し、ランチ担当圏域を地区ごとに分けた。チェックリストや新規相談を地区ごとに担当する職員（6名）を決め、地区担当制で相談受付をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・むくげやきらきらサロンへの参加はできていない。小規模利用者の関係から、笑の家との行き来をしている。新たな地域資源を知ること、その社会資源の活動や情報提供から、地域のニーズが見える。 ・山代地区の地図をエリア分けしたが、エリア毎に担当を決めた対応はできていない。基本チェックリスト（ハイリスク者）訪問、新規訪問は件数を均等に分けて調整した。今後、エリア担当ごとに対応していく事が有効かどうかの検証をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規相談や基本チェックリスト訪問から、これまで行けていなかったサークル等への参加ができた。参加する事で参加者の名前を覚えたり、繋がりが広がる機会を持つことが出来た。継続して地域活動への参加は必要だと感じた。 ・エリア分けしたことで、チェックリスト等の訪問をしているが、定着したエリア活動には至らない。来年度も引き続きエリア別訪問は実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区域別担当職員を決めておくのは良いと思う。同じ顔の人がその地区の相談にのってくれるのは地域にとっても安心。人と人の繋がりは安心と信頼があってこそだと思う。 ・山代に住んでいる職員なら、地域に入りやすいかもしれないが、そうでない場合は地域の事を知らない場合が多いと思うので、地区ごとの民生委員や区長など見識のある人に頼れるといい。そういう人との関係づくりも大切なのではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きランチ担当圏域を地区担当制で相談受付をしていく。ランチ応援団マップを活用し、担当職員が地区の特性や住民のことを理解する。 ・ランチ応援団マップに情報を追加していく。 ・目指す姿をいつも見えるようにする（日報に貼布）。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「山代地区を良くする会」を継続していき、地域有識者や民生委員と地域の事について話し合う機会を絶やさない。また、良くする会で掲げた目標を事業所でも共有し、地域と協働取り組みを実現していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「山代地区を良くする会」は毎月継続し、地域の課題に対して、参加者と共に考える機会をもっている。最近では、高齢者の暮らしの課題を山代中学校ともコラボし地域で支え合う取り組みを、次世代への継承という側面からも検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「山代地区を良くする会」への参加により、住民と地域の課題や山代の良いところを掘り起こす機会を持った。冬場は大雪対策として、山代中学校と連携し、中学生ボランティアの活動が機能できるよう仕組みづくりを行った。今年度は雪かきボランティアの実績はなかったが、来年度も継続して実施できるように、「山代地区を良くする会」のバックアップ体制を整えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前から若い人たちが地域の事を考える機会は必要なのではないかと思っていた。今回「山代地区を良くする会」で中学生が雪かきボランティアをするという取り組みを、中学生や先生と一緒に考えた事はよかった。菖蒲湯祭りの後のゴミ拾いや掃除も中学生が頑張っている。若い人も地域の為に何かしたいという気持ちのある子がいて頼もしい。思いが本当に実現できるとよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック連絡会での事例検討の継続。 ・「山代地区を良くする会」に参加し、住民と山代地区の事を考える機会を持ち続ける。会の進行や運営などは、まちづくり推進協議会会長やすみれの家と相談しながらランチと住民が主体的にできるようサポートしていく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾に参加し、担当の参加者の状況を確認したり、一緒に予防活動に取り組みしていく。 ・継続訪問の中で把握し理解していく事は、周囲の社会資源との繋がりが（関係性も含めた理解）や、どこにどのような資源があるのかを知る事である。訪問時は軒下マップを持参し、訪問ごとにその方の社会資源を一つ追記していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾に参加し、参加者や活動の様子を確認することが出来た。また、地域型元気はつらつ塾を終了したり、継続できていない対象者については、今後も経過を見ながら状況確認し、生活が継続できるように一緒に検討する。 ・継続訪問している対象者の軒下マップは都度追記し、マップの充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップは追記している。情報を追記するにとどまり、軒下からつながりをあげたり、担い手探しをする等は行えていない。 ・山代地区の応援団マップを運営推進会議や「山代を良くする会」で住民と一緒にマッピングをした。今後も応援団を発掘しマップの内容を充実させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マッピングは何かしたいとの思いがある住民自らがマッピングできるとよい。 ・マップが完成して、人が機能するとランチ活動も地域と連携しながらできることが増えてくるので活発化すると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山代のサークルやサロンへの参加は続け、参加者の名前を覚えたり顔なじみになる。代表者と仲良くなる。 ・山代地区応援団マップを充実させる。具体的には、良くする会や民生委員の総会等に向き、住民と一緒にマッピングできるとよい。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック連絡会での事例検討会で地域福祉コーディネーター支援・間接支援について学び合い、日々の振り返りをする。 ・中堅職員研修修了者を中心に軒下マップを活用した継続訪問者について話し合いを行う（ランチミーティング1/月）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、ブロック連絡会では地域福祉コーディネーターに関する事例検討会を実施している。コーディネーター支援に繋がる為の具体的な視点や方法を深めていくことに焦点をあてた話し合いをしている。ツールとしては軒下マップを中心に活かし方や地域福祉コーディネーターの役割や立ち位置を振り返る機会としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック連絡会の中でコーディネーター支援について、軒下マップから考えられる方法を検証した。個別の関わりを通しては、それでもデマンドに応じている場合がある。一つの事例を通して、暮らしに視点を置いた考え方を振り返る機会を持ち続けなければいけないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活から、地域の事を考えることはとても大変。どうしても表面的に出ている事に対応しがちになってしまうと思う。丁寧に関わってくれているのを見れると地域も安心だし、また頼ってみようと言う気持ちになる。自分たちも出来る事は手伝いたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック連絡会では、引き続き軒下マップを活かしたコーディネーター支援についての振り返りをしながら、さらに、日報から課題を抽出し、その課題と軒下との結びつきを検討し、具体的取り組みに活かせるようにしていく。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	いらっせ庄
施設管理者	森下 絵美子
事業責任者	小林 百合江
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	「誰でも困っていたら助け合える町づくり」
------	----------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> かがやき予防塾修了生と地域においてどのような活動ができるか、話し合いをしている。今後も継続し、実現していく。 地域型元気はつらつ塾の役割や活動内容、対象者、申請の流れについて把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> かがやき予防塾修了生が参加する交流会を毎月継続している。 地域型元気はつらつ塾については、活動内容・対象者・申請の流れについて職員会議等利用し、把握する場を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> かがやき予防塾修了生が交流会の中で編み物やカラオケ、体操など修了生が出来ることを行う場面を設けることが出来た。 地域型元気はつらつ塾と地域おたっしやサークルとの違いが明確でない職員がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも地域との交流を続けて欲しい。頼りにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流会を引き続き継続しつつ、今後は、修了生以外の地域の方にも声かけしていく。また、小規模多機能ホームのボランティアグループゆいの会との顔合わせや茶話会を行っていく。 地域型元気はつらつ塾を含め、地域の活動を把握、理解していく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での情報共有の場に、職員会議や日々のミーティングを活用していく。 地域の方との世間話や何気ない立ち話も、地域を知るための情報であることを意識できるようにする。（ミーティングを継続し、情報共有することで意識できるようにする） 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での情報共有の場に、職員会議や日々のミーティングを活用している。 地域の情報の把握について。職員個々に地域の情報を持っている（地域の方からお話を伺う等）が、記録として残っていることが少ない。その為、共有とまで至らないことが見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員個々が地域の方と関わりを持ち、地域の情報を持っている。その情報を職員間で話し合う機会を設けるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区のことはその地区の人に聞くのが一番。どんどん聞いたら良いと思うし聞いてほしい。誰に聞くか分からなければ、地区会館にまず相談すると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員個々が地域の方と関わりを持ち、地域の情報を持っている。その情報を職員間で共有する機会を設ける。 相談の傾向を確認し、地域の課題を把握していく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップを知らない職員に勉強会を行う。 職員間での情報共有の場や振り返りの機会に軒下マップの追記を行う。また、継続訪問者の軒下マップの追記も行っていく。 今後、地域ケア会議の開催が必要な場合に向けて、民生委員やサークルリーダーとの関わりを持っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップとは何か、職員会議にて勉強会を開催した。 継続訪問者の状況確認は行なうものの、軒下マップの追記に至っていない。 民生委員やサークルリーダーとの関わりについて、関わりのある方は顔見知りになっているが繋がりを持っていない方もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップが何か、職員皆が知っている。しかし活用できていない。 ランチミーティングを定期的で開催（毎月の開催日を決めた）軒下マップの見直し、追記を行なう。 若葉台町の一人暮らし世帯をかがやき予防塾修了生や民生委員等と一緒に情報の共有を行なった。 	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップがどういうものか初めて知った。軒下マップを実際にみせてもらった。 ランチ職員が健康クラブや元気はつらつ塾に参加されていますね。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで事業所が培った地域との関係性を活用し、地域の各種団体や民生委員とつながりをもつ。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域型元気はつらつ塾や地域おたっしやサークル、健康クラブ等、地区の活動に参加する。各々の活動の目的や内容、対象者を把握する。 職員間での情報共有の場に、職員会議や日々のミーティングを活用していく。 地域の方との世間話や何気ない立ち話も、地域を知るための情報であることを意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域型元気はつらつ塾や地域おたっしやサークル、健康クラブ、若葉クラブ等、地区の活動に参加している。 職員間での情報共有の場に、職員会議や日々のミーティングを活用していく。 地域の情報の把握については、職員個々に地域の方からお話を伺っているが、記録として残っていることが少ない。その為、共有とまで至らないことが見受けられる。 地域型元気はつらつ塾進捗会議にて参加者の状況把握を行い、支援の方法を考える機会にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域型元気はつらつ塾やおたっしやサークル、健康クラブ、若葉クラブ等、地区の活動に参加している。 地域型元気はつらつ塾進捗会議に必ず参加し、参加者の状況把握を行い支援の方法を考える機会にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域型元気はつらつ塾にランチとして顔を出すことは実際に活動を見るということでも良いことだと思う。どんどん顔を出してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域型元気はつらつ塾や地域おたっしやサークル、健康クラブ、若葉クラブ等、地区の活動へ参加を続け、活動内容や目的について理解を深める。 地域の情報把握について。職員個々に地域の方からお話を伺っているが、記録として残っていることが少ない。日報を活用し情報共有し、地域の把握を行なう。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源マップを完成させる。 職員間で地域の情報共有を行う際に、職員会議や日々のミーティングにて、その都度社会資源マップに情報を追記していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源マップについて。作成途中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源マップが完成した、しかし社会資源マップの追記が少ない。 若葉台の一人暮らし世帯をかがやき予防塾修了生や民生委員等と一緒に情報の共有を行なった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしの高齢者を地図で確認した。若葉台の民生委員と一緒に確認し情報の共有はできたことは良いことだとおもう。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で地域の情報共有を行う際、その都度社会資源マップに情報を追記し、必要時に活用できるようにする。

平成30年度 加賀市ブランチ評価 統括表

ブランチ名	いらっせ湖城
施設管理者	福島 和江
事業責任者	前田 さよ
ブランチ設置年月	平成27年7月

目指す姿	隣近所が顔見知りになり、見守り助け合いできる関係になる。
------	------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に参加している方の状況把握や困りごとの把握のために、職員も一緒に参加する。 ・食事会参加者に、参加者以外の地域の気になる人や生活しにくくなっている人がいないか等の情報把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までは地域食事会開催時、挨拶や献立の説明等だけしていたが、それだけでは地域の情勢等を知り得る事は出来なかった。又地域の方が相談したいと思っても相談しにくい状況であった。 ・今年度は、地域の方がより身近に相談出来る様に職員交代で利用者と一緒に食事会に参加するようにしたところ、地域の情報を聞くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、地域食事会（隔月喫茶）を開催しており、職員や利用者も参加し、地域の情報をお伝えしたり、又、困っている事等把握している。 ・いらっせ湖城が、片山津地区こころまちセンターである事は食事会を通して周知されており相談に対して、自宅訪問、電話等で対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事会に参加している人は、老人会の人が多く、参加しているが参加している人が、固定化されていないか。新しい参加者はいるのか。 ・又、開催の案内チラシをサロンだけに配布すると、参加者も限られてしまうので、他の地域の人への周知も検討してみようか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域食事会開催時だけでなく、身近な相談窓口が湖城にあるという事を地域の人に知ってもらう工夫をする。 ・独居の方や介護に悩んでいる人の相談に対して、本人のできる力を把握し、社会資源の提供を行う。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所の運営推進会議に参加し、地域の情報を知り相談時に情報提供できるようにする。 ・サロンやサークルの場でのボランティア参加の声かけと説明を行う。 ・地域サロンで区長や地域住民に対し、元気はつらつ塾の協力員の呼びかけや、地域の介護保険事業所でのボランティア活動をしてくださる方の声掛けや説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所（1事業所）の運営推進会議に参加し、情報共有はできている。しかし、相談時に、情報提供は行っても対応は出来なかった。 ・サロンには、毎月顔を出し、ボランティア参加の声かけを実施したが、地域の方々の協力は得られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所の運営推進会議に、決まった職員ではなく、交代で参加できるよう工夫している。知りえた地域の情報や課題などを共有し相談時に対応できるように心がけている。 ・ボランティア参加の声かけに対しては、継続して参加のお願いをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの募集に対して、内容によって出来る範囲に違いがあると思う。少ししかボランティア活動が出来ない人もいるかもしれないが、大事にしていけないといけない。 ・老人会の方でも、ボランティアとして参加できないか。サロンだけの声かけだけでなく、かがやき予防塾08会に参加し、その場でも声かけしてみようか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所の運営推進会議やサロン、サークルなどに参加し、地域の困りごと（課題）を知る。又、同時にボランティア参加の声かけ説明を行う。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップを活かして、地域とのつながりが途切れたケースや、生活しにくくなったケースの情報を民生委員や区長等と共有し、考える機会をつくる。 ・直接話したことのない民生委員や区長に顔を覚えてもらい、双方で相談しやすい関係をつくるために定例会等に顔出ししていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の場で、民生委員にはケースの情報を伝えている。又、サロンに参加している事で、区長とは顔馴染みなり相談しやすい関係になったことで、区長からの相談もあった。 ・民生委員の定例会には、2回程参加し直接相談があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員から直接相談があり、ケースの情報を運営推進会議で参加者と共有している。温泉場という地域柄、事例困難や関わりが難しいケースがある。軒下マップから地域との繋がりが途切れたケースが多いのが現状だが、民生委員、区長に情報提供は継続している。 ・民生委員の定例会への参加は2回で留まり、継続はできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉場という地域柄、独居の方が多い。又、認知症を患っている方がおり、問題を抱えているケースは多くあると思う。個別ケア会議はぜひ開催してほしい。時間が経ち、何となく解決に向いたという事もあるかも知れないが、会議の必要性など職員で早めに検討して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困難ケースや関わりが難しいケース等、ケア会議の必要性を検討し、開催できるよう調整工夫する。 ・民生委員や地域の方からの相談に対して、地域の情勢を運営推進会議や食事会で共有し一緒に考えていけるようにする。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランチ研修、勉強会に参加した職員は、職員会議などで定期的に報告していく。 ・他事業所と情報交換を行い、サークル活動の情報を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランチ研修、勉強会には、職員交代で参加するようにしている。学んだことは、ブランチ内部ミーティングで報告している。 ・他事業所には、用事がある時のみ行くだけで、情報交換は出来ておらず、サークル活動の情報も得ることはできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や勉強会に参加した職員は内容を含めミーティングで報告している。 ・他事業所との連携に関しては必要時に情報提供を行っている。その際、ケースに対しての社会資源や新たな課題がない等検討している。 ・地域のサークル活動の情報を得ることはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家事支援サービスを利用された方において、その後の継続訪問がなかなかできていないということであるが、生活状況が安定したなら、特に継続訪問しなくてもいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や心配を抱える高齢者に対して社会資源の提供や、必要に応じてサロン、サークル、地域元気はつらつ塾などの参加を勧める。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャーから気になる方の情報を得、ブランチと協働してお互いに地域の課題に取り組めるようにする。 ・ブランチ活動の中で、どの職員が訪問しても情報提供が出来るように会議内で共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ圏域のケアマネージャーとは用事があった時しか情報を得る事はしておらず、地域の課題に対して協働して取り組むという場は作れなかった。 ・ブランチ内部ミーティングでは相談の内容を職員間で話し合い、情報の共有をしている。チェックリストや新規相談の訪問対応できる職員が少なく、ブランチ活動している職員との連携はできているが、全職員に向けての（職員会議）話し合いは出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャーからの相談に対しては、社会資源の情報を随時提供できるよう携帯できる一覧を作成してあり、訪問時は必ず携帯し訪問している。 ・ケースも担当者以外のどのスタッフでも対応できるよう、内部ミーティングや申し送りなどで共有出来るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・片山津の温泉場という地域がら、身寄りのない方が多く生活保護の方も沢山いる。特にそういう方達は、なんでも困ったら民生委員に言えば何とかかなと思っている住民がいるので困り大変である。 ・ブランチに相談したら直ぐに対応してくれるのでいい、介護保険以外の社会資源も助言してくれるのでいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規相談に対して、その後の報告を職員間で話し合い、課題は何なのかという事の見解を出し合う。 ・相談内容に対して介護保険以外の社会資源の助言ができるように社会資源一覧の修正をし、完成させる。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	金明地区高齢者こころまちセンター
施設管理者	西 邦子
事業責任者	西 邦子
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	<p>病院、店がなく不便だが、隣近所の繋がりが強い。お互い助け合いこれまで通りの暮らしができる町に！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8町全てに「集う場」があり、ちょっとした相談が出来る場がある。 ・身近な相談窓口として、地域の中で支援を必要とする人々を把握し生活課題の早期発見に努める。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ活動の職員を4名から7名に増やす。 ・チェックリスト訪問は町ごとにスタッフを決め担当制にする。 「体操が出来る場（予防）」として町民会館は使用できるので住民と一緒に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ訪問（チェックリスト含む）は7名に決め、訪問時に必要な書類や訪問の仕方などを個別に指導したが、訪問回数が少なかったため実際の活動は5名が行った。 ・7月13日に地域ケア会議を開催し、住民が集まる場や体を動かす場がない事の課題に対して話し合い、その後野田町、宮地町のサロン活動を毎月1回町民会館で行っている。現在は代表者が決まっていなかったためその都度住民が交代で担当している。ランチとしては後方支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町担当を含め7名の担当スタッフには活動回数に差があり、対応は事業責任者が行っている事が多い。 ・7月に地域ケア会議を開催し「宮野健康クラブ」を住民中心で立ち上げた。現在月1回第3月曜日に開催しており代表者は決まっていなかったが、1名の方がお世話をしている。時々ランチ職員が参加して、相談にのっている。 ・美岬町の把握ができていない。サークル活動は行っていない為拠点がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮野健康クラブは月1回行っているが代表者を決めないといけない。代表者はなかなか成り手がいない。 ・篠原町歌謡サークルについては知らなかった。 ・美岬町については町民会館での集まりはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ会議を毎月スタッフ会議の後に開催する。 ・美岬町は町民会館を使用しているサークル活動は行っていないが、住民はそれぞれ自宅等で集まっており交流している。住民の状況の把握がなかなか出来ないため区長や民生委員から住民と繋がる方法を聞き見知りになる。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員定例会に参加する。 ・金明地区の民生委員との意見交換会を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月12日ランチの紹介の為民生委員の定例会に参加。 ・7月12日金明地区の民生委員と第1回意見交換を小規模多機能ホームきんめいで行う。 ・11月12日第2回意見交換を金明地区会館で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月12日に金明地区の民生委員さんとの意見交換会を行っている。 ・「7月3回のサークルの他にどこか行くところがないか」との意見があったが、具体的にどうするといいか検討はできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員と意見交換することはとても良いと思う。片山津地区民生委員定例会は毎月12日に行っている。年2回金明地区会館で開催されるので、その時に金明地区民生委員との意見交換を行ったらどうか。 ・「サークルの他にどこか行くところがないか」との意見の解決に向けて取り組んで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も民生委員との意見交換会は年2回開催する。 ・初期訪問では「外出の場がないか」という相談があり、地域型元気はつつつ塾の必要性を運営推進会議やまちづくり協議会で検討する。 ・元気な住民の把握にも努め社会的活動を行っている方のリストを作成する。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップの勉強会をする。 ・訪問の際地域との関係を聞く。（軒下マップに記入） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市が開催した軒下マップの勉強会には3名が参加しスタッフ会議で復命を行った。 ・金明地区住民と連携する為に、4月に「金明地区まちづくり懇親会」に参加し金明地区高齢者こころまちセンターの紹介を行い参加者全員に名刺を配った。 ・ミヤノ健康クラブ（野田、宮地）立ち上げの為地域ケア会議を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談を受けた方、チェックリストでかかわった方の軒下マップは作成している。 ・訪問の際、地域との関係性をうまく聞けず、軒下マップにはかかわりのある方の記入ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップとは…よくわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した軒下マップから「繋がりが途切れそうな人や場所」について、ランチミーティング（不定期開催）で検討する機会を持つ。（みんなで考える）
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「塩浜町おたっしや・クラブ」に参加しなくなった方の訪問を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「塩浜町おたっしや・くらぶ」に月1,2回参加し、最近気になる人をお聞きし訪問している。 ・小塩辻健康クラブに月1,2回参加し住民と顔見知りになると共に、今後のサークル継続についても相談にのっている。 ・各町で行われているサークル活動に参加することで、早めの相談を受けやすく介護予防に繋がる。 ・篠原町サロンに3回程参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「塩浜町おたっしや・くらぶ」には出席簿がわかりやすく表示されており最近欠席の人目も一目瞭然と確認できる。気になる人については、「塩浜町おたっしや・くらぶ」を中心に行っている人や参加している人、事務員に「気になる人」をお聞きし必要な時は訪問している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの町でサークル活動を行っている事を知らなかった。 ・塩浜町は出席簿が分かりやすくなっているのはすごい。 ・サークルに参加しなくなった人で、町の人から声掛けもしているが、その中で気になった人に対して訪問してくれるのは有り難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町担当を決めたので、担当スタッフはサークル活動に参加し「顔見知り」になる。 ・サークルに参加した際町民会館の事務やお世話をしている人に「心配な人」はいないか確認する。「心配な人」に対して、先に町の人から訪問してもらい、気になる人をランチが訪問していく。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を知るために、持っている情報を「見える化」する為にマップングが必要。 ・8町の「集まる場」「1人暮らし」「気になる人」などのマップングを行なう。 ・「かも丸くん」の軒下マップを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塩浜町のマップングを「塩浜町おたっしや・くらぶ」の参加者と共に行った。「1人暮らし」「サークル活動参加者」「チェックリスト・相談」にチェックがいった。 ・他の町はランチとしてかかわった人にはチェックをしているが、町の資源の「場」や「人」はまだ知らないことも多くマップングは出来ていない。 ・「かも丸くん」のマップングもまだおこなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップとして、事業所を中心に応援団である元気な人や集まりの場等を記入したものを作成したが、まだまだ資源があるので記入が足りない。 ・篠原町、篠原新町、美崎町千崎町、美岬町大島町については知らないことが多い。 ・「かも丸くん」の軒下マップは作成していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かも丸くん」を利用している人はどうやって把握する。 ・勝手に聞くと個人情報のこともあるし出来ないのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の一覧表を作成する。一覧表には「車イス設置の有無・スロープ設置の有無・トイレの様式等」を記入する。都度更新する。 ・野田町、宮地町の「集まる場」「1人暮らし」「気になる人」などのマップングを行なう。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	橋立地区高齢者こころまちセンター	目指す姿	遠い親戚より近くの住民～ちょっとし不便かもしれんけど、安心がある町！橋立～ ●人と人、人と場のつながりが途切れず、途切れている場合は結びなおし、つながっていない場合は新たにつなぎ、更には次世代へつなげていくことで、年齢や障害の有無に関わらず、安心して暮らせる町づくりを地域の人と一緒に取り組みます。 ●まずは、地域の人に気軽に「ねえ、ねえ、姉ちゃん、兄ちゃん、ちょっと、ちょっと」と相談してもらえる関係づくりを目指します。
施設管理者	田中 直也		
事業責任者	山崎 麻子		
ランチ設置年月	平成27年9月		

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1	地域包括ケアシステムの構築方針 ・相談体制について、毎日ランチの副担当者を配置し、また、ランチの日報に全職員が記載する「サイン欄」を設け、全員がランチ活動に関心を持ち関与する意識を高める。 ・片野町サロン設置に向けて、要になる民生委員等と必要性、内容、継続可能な方法等について、相談していく。 ・田尻町の地域おたっしやサークルについて、ニーズを改めて確認し、再開に向けて老人会等と相談していく。	・相談体制については副担当を勤務表の中に組み込んだ。また、ランチの日報についてはタイムリーに報告し「サイン欄」を設け情報の共有を図ることでランチに対する関心・意識を高めることが出来た。 ・片野町のサロン立ち上げについてニーズを把握する方法として、マッピングを活用できないかと片野町民生委員と話し合い、橋立マッピング作りに参加して頂いた。 ・田尻町の地域おたっしやサークルについては包括、社協と情報の共有を図り、どのような関わり、後方支援が良いのか検討した。	・チェックリスト訪問が業務中にスムーズに且つタイムリーに行なえるよう、新たにチェックリストの担当を決めた。初期相談、チェックリストと役割分担をしながら取り組むことが出来ている。 ・日報については毎回タイムリーに報告しスタッフとの情報の共有を図っている。 ・田尻町のサークルについては社協、包括と情報の共有を図りつつ、地区老人会長や町の民生委員からも情報収集し、どのような関わり、後方支援が良いのか検討した。	・田尻町の老人会は60人くらいだったが10人ほど増えて今85名ほど登録している。この前も食事会を開催していた。単発的な活動はしている状況。どこも、サークル、サロン等と云うと世話役が大変なので誰もやりたがらない。田尻町や片野町の老人会がそのような場所を望んでいるかどうか。黒崎町のように来た人にコーヒーを出すだけのよう、世話焼き抜きで気軽に集まれる場があると良いと思う。場所は公民館などを活用すればよい。その時はその町の区長に相談するとよい。	・田尻町、片野町の住民が集える場について、民生委員や区長と相談し、町のニーズとしてどのような場があれば良いのか具体的に検討していく。
2	区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針 ・毎月の事業所内ミーティングで、地域の実情の報告を行うことを定例にする。その場合、小規模多機能型居宅介護事業の登録者の地域の実情を意識して共有することで、全職員が身近な課題として捉えられるようにする。 ・ボランティアのニーズ等については、日頃の住民との繋がり（運営推進会議、サークル活動等）の中で、ニーズをキャッチして、必要な活動に繋げる。	・事業所内ミーティングでランチ業務の役割、課題について話し合うことが出来た。 ・ボランティアについては手芸サークルや小規模多機能ホームはしたての行事を通してキャッチ出来ているが、必要な方への支援や活動に繋がっていない。	・毎月スタッフ会議にてランチ業務の役割、課題について話し合う機会を持つことが出来た。ランチ業務で悩んだことや意見について一緒に考える機会を作っている。 ・ボランティアについては相談で関わった方のニーズとマッチングしたこともあり、地域型元気はつらつ塾の協力委員として参加に繋がった。また、事業所内で行っている行事に地域のボランティアの方に来てもらい住民の方の声や情報を参考にしながらボランティアのニーズ等についてキャッチできるように努めている。	特に意見なし。	・事業所内での情報の共有について、今後もスタッフ会議の場を活用しながら全スタッフが地域の課題や状況を理解できるようにする。 ・運営推進会議の場でもランチの活動報告をしながら町の課題や取り組みについて一緒に考える機会を設ける。 ・ボランティアについてはかがやき予防塾、認知症ケアパス、そのほか、住民主体で活動している場に出向き顔をつなぎながら情報収集し、必要時適宜に繋げるようにしておく。
3	介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針 ・個別地域ケア会議や地域ケア会議は、必要な場合に適宜実施する。	・民生委員の方とは相談を通して話をするとはあっても、地域ケア会議や個別のケア会議にまでは至っていないのが現状。	・民生委員の方とは運営推進会議や相談を通して話や意見を聞くことはあっても、地域ケア会議にまでは至っていない。	・個別の話になると個人情報も関係してくるので慎重に行なわないといけな。	・個別地域ケア会議、地域ケア会議については必要な場合に個人情報に注意しながら適宜行っていく。
4	介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針 ・地域型元気はつらつ塾について、類似サービスとの併用の可否について整理する等、ニーズに合わせて地域型元気はつらつ塾の機能や地域での役割を基幹型包括と協議していく。 ・協力員について、現在は橋立町の方だけなので、他の町の方に参加してもらえよう、周知方法等を検討する。保健推進員にも内容の検討や協力員として参加してもらえないか事業担当者、基幹型包括、健康課等を交えて協議する。	・協力員については事業所のサークル等で出会う地域の方に協力をお願いしているところ。 ・更に、他の町の方に参加してもらえようように健康課などを交えて協議したいと考えているが実施できていない。	・地域型元気はつらつ塾の協力員については1名橋立町以外の町から協力してもらえよう方に繋げることが出来た。	・地域型元気はつらつ塾の協力員について、実際協力員として活動している人からは、協力員が少ないと、休みを交代でとることが難しいことがあるとの声がある。参加している人数が今の所そんなに多くないが、参加者が増えれば、協力員もその分必要となってくるのではないかと。他の地域型元気はつらつ塾の話や月1回、協力員が昼食を調理して食べているところもあると聞いた。自分たちの所が同じようなことは出来ないが、体操の休憩時に橋立町の区長が経営しているカフェのコーヒーを少しずつでも提供して楽しみを持ってもらうのはどうか。区長も地域型元気はつらつ塾がどのような活動の場になっているのか、これを機に知ってもらえる機会に繋がらないか。	・地域型元気はつらつ塾について、保健推進員にも内容の検討や協力員として参加してもらえないか事業担当者、基幹型包括、健康課等を交えて協議する。 ・民生委員や区長にも地域型元気はつらつ塾がどのような活動の場になっているのか見学に来てもらう。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービス等の知識については、事業所内で学習会等を開催し理解を深める。 社会資源マップ作成は、片野町において、区長や民生委員に相談する。 既に社会減マップ作成済みの橋立町のマップ更新を行う。その際に、興味のある他の町の民生委員に呼びかけ、作成作業の見学をしていただき、今後の参考にさせていただく。 地域福祉コーディネーターについては、第2層協議体の設置を意識し、まちづくり協議会と相談していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービス等についての学習会はまだ開けていないのが現状である。今年度中には計画を立てスタッフ会議の場を活用しながら取り組んでいく。 社会資源マップは橋立町のマッピング作りを作成する際に、片野町の民生委員の方にも来てもらいイメージが湧くように参加してもらった。今後、片野町でマッピングする際のイメージ作りに繋がるとよい。また、橋立町のマッピングについては一目でわかるように更新できた。 作成の際にまちづくり推進協議会の会長や橋立地区公民館長の宮下氏に声かけし、地域福祉コーディネーターについて意識できるように参加してもらうことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、相談から得た各町の課題をグラフ化するなどし視覚化する。今後、まちづくり協議会に相談していく為個別の相談内容から見える町毎の課題を整理している最中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 町の行事も毎年マンネリ化していると情報があった。また、行事を開催しても参加者が減ってきているのが現状である。その理由として、徐々に以前から参加していた方の高齢化が進んでいることや、新たな取り組みに関心が無かったり、子育てが忙しかったりすることが原因になっている。子育て世代は、その仲間との繋がりはあっても、地域とのつながりが薄い。今の若い世代は町の事に関心がないと思われる。30、40代の世代の方を何かしらに切り口で巻き込んでいかないと町の再構築や現実問題を知る事にはならない。何かやろうとしても、事故の心配があり、前に進まないことも大いにある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各町の課題を視覚化し、まちづくり推進協議会に相談していく為個別の相談内容から見える町毎の課題を整理する。 どの世代の方も楽しいと感じることを切り口に町づくりの展開に繋がることを検討する。具体的には黒埼町の子どもを持つ親子さんが「子ども食堂」を立ち上げたいと考えており、必要に応じた後方支援を行っていく。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	動橋ひまわりの家	目指す姿 地区の目指すべき姿 地域住民同士が助け合える町作り 地域住民→動橋地区（ご近所・サークルやサロン仲間・友人・預金講含む）+小規模ひまわり助け合う→互助の精神・持ちつ持たれつ・助け合い組織・自治体や各関係機関の助け合い
施設管理者	庄司 美樹子	
事業責任者	村上 由花恵	
ランチ設置年月	平成27年9月	

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動へ全職員が参加し顔見知りの関係を築く事ができるよう、計画的に参加できる工夫をする。（当日の役割分担に担当決める） ・活動に参加する際には、参加されている方々の現状を把握したり、地域の課題やニーズを把握できるように意識して関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンやサークル、元気はつらつ塾開催日に職員が交代で参加できるよう、勤務表に担当を明記し、確実な参加を心掛けたが、7・8月休職者があったため担当割が組めず参加できないことが多かった。9月・10月新しく職員増えたため、今後計画どおり参加できるよう努める。 ・サロンやサークル等の参加ができない分、地域で出会う方々との関りを大切に、これまで関係続いている方々とのつながりを切れないように努めた。 ・地域の会議や地域行事に参加はできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月より職員増えたことで、サロンやサークル等や元気はつらつ塾へ職員が参加できるようになり、月1回必ず参加できるようになった。 ・地域活動への参加する職員の偏りがあり、同じ職員がしているため、まんべんなく参加できるよう計画的に進める必要がある。また、参加し顔見知りになれたことに続いて、気になる方や地域の社会資源、地域の関係性など目的をもって参加できるようになると良いと思われる。 ・知り得た情報を職員間で共有し、様々な社会資源を活用できるようにチームで関わることを意識できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスだけでなく、地域で支え合うことができると良いと思っている。サロンやサークルに出てくる人は、ほとんど一緒のメンバーで、知っている人は助け合いやすい（地域住民）。 ・自分たちが地域住民ができることを探っつけていけると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動へ参加することが定着してきているので、直接の相談だけでなく、地域活動の際などにモニタリング・アセスメントの意識をもち、何気ない会話の中からのヒントや気づき等を、ミーティング等でチームで共有し、アイデアを出しを行う。経験している職員が中心となり、職員個々が相談を受けてからの対応までを考え提案できる力を養っていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で、職員が担当区域の実態を把握し、課題分析する機会をつくり、取組に対する意識を統一する。 ・動橋町以外の町について、地域住民と意識的に関わるように心掛け情報収集し、関係を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉協力員の方や保健推進委員の方々と連携し、地域の課題を共有できるよう研修会や勉強会等へ参加し、顔見知りになる機会をもてたことで、地域の方への周知が広がり、会釈や声をかけてもらえることが増えた。 ・中島町・合河町・梶井町は、敬老会の参加をきっかけに区長さんや世話役の方と知り合うことができたので、途切れない様に地域に向向くことを続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の相談内容や地区の状況などから、課題を分析する機会をもつ計画であったが、大まかに把握しているに留まっている状況で、分析まで至らなかった。 ・動橋町以外からの相談がある時や、住民と関わる機会には、町の情報を知ること意識して関わり、情報を集めることや関係づくりを努めていたが、具体的な社会活動を希望する方々などの確認や把握ができていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員として担当している地区でも、差がある。 ・男女で話してもらえないことがある。男性は話してもらえないことがある。 ・預金講があることでの良い面と悪い面があり、仲間意識が強すぎるといろいろと難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各町へ出向く機会を意識して増やし、事業所職員が地域を理解することや、実態を把握できるようにする。また、民生委員の方や地域でつながりある方々との関係を生かし、各町の情報を収集しまとめ、分析につなげる。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップからのつながりを意識して、個別ケア会議の開催や地区単位地域ケア会議につなげる事ができるよう取り組んでいく。また、民生委員の方々との関係を密にし、協働して意見交換の場ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方々との関係は、定例会の参加を継続できていることもあり、相談できる関係になってきている。それぞれが持っている情報を話合える機会や話し合うしくみが無いため、ランチが知り得た情報からつなげていけるようなアイデアを考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員定例会の参加を継続できている各担当されている独居の高齢者や高齢者世帯の情報交換ができるようになってきている。 ・個々のケースの軒下マップ作成から個別地域ケア会議の開催の必要性を意識して関わることも増えたが、開催まではなかった。また、地区単位の地域ケア会議について、サロンやサークルリーダーの方々から意見をいただくことができ、今後開催できるように取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員として関わっている人の相談はランチの職員が定例会に参加されているので、話出来ている。情報交換も行っている。 ・何をやるにしても、リーダーや旗振りしてくれる人が必要。なかなか手がない。 ・まちづくりの人の連携が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップからのつながりを意識して作成することを続け、作成した軒下マップのつながりについて実践事例を職員で確認する機会を作りアイデア出しを行う。 ・出し合ったアイデアをもとに、まちづくり協議会の方と話合う機会をもち、地区単位の地域ケア会議開催に向けて一緒に考える。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のサークル等へ顔を出し、活動内容を知ったり、活動に参加されなくなったり、気になること等情報をもらせる関係を築く。 ・「地域型元気はつらつ塾」の進捗会議に出席するなど活動に参加されている方々の状況確認を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の世話役の方との関係を継続し、サロン等の参加者の情報や地域の情報などをランチに伝えてもらうよう声掛けを意識して行った。 ・特定の方々とのつながりが強い状況があるが、新たに関わりを広げたり深めたりしていくことも必要であるため、チェックリスト等の訪問時に意識的に関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員自身がサロンやサークルに参加する機会が増え活動状況を知ったことで、実際に相談があった時に説明しやすくなったとの意見があり、地域へつなげる意識が高くなっている。 ・元気はつらつ塾が1年経過し、定着してきており、進捗会議や開催時にモニタリングできるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンでは、毎回ラジオ体操をはじめに行い、運動も取り入れている。動橋さわやか会の女性もメンバーは参加者が多い。男性の参加が少ない。 ・新幹線工事のため、グランドゴルフ場が無くなっている。工事が終わると整備されるとは聞いている。 ・男性が活動できる場があると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルやサロン・住民主体の活動に職員が参加することができるよう、年間・月間計画を立て計画的に実施していく。活動に参加されている方々の名前と顔が一致するようにし、また顔見しりになることのできた方々と、情報交換ができる関係を築く。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ連絡会などで、他ランチの活動を参考にし、担当地区の課題に対して具体的な取組について地域住民と一緒に考える機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問での出合いや、地域での関わる機会には、地域のニーズの把握に努め、社会資源を意識して相互につなげることができるようにした。 ・軒下マップや資源マップの活用ができていない。 ・商工会の協力による福祉マップの作成に関して途絶えている状況であり、確認と具体的な話を進めていけるよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の相談や地域活動の参加から多くの情報を得られているが、それらの情報を社会資源マップに記入するなど、マップを更新していくことができず、活用できなかった。 ・ランチ連絡会や勉強会で他地区の取り組みを聞く機会が多くあり、事業所内でランチについて話合うことはできるようになった。個別のケースから、推進会議以外に地域住民と一緒に考える機会をどのように作るかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・麻雀クラブがあると参加したいと思う。 ・昔は自宅で麻雀をよくしていて、地域の男性が集まっていた。 ・小さい時に町で将棋をお年寄りと一緒にしていたことを思い出した。 ・地区会館を利用して、将棋や囲碁ができる良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動橋地区の個々のニーズから地域のニーズを把握し地域住民と相談しながら、地区の地域ケア会議開催に向けて取り組む。地域ケア会議の開催に向けて情報を整理し、各機関が各々の取り組むことを明確にする。

平成30年度 加賀市ブランチ評価 統括表

ブランチ名	いらっせ 分校	目指す姿	いつでも気軽に相談できる町
施設管理者	村井 英樹		
事業責任者	内村 好美		
ブランチ設置年月	平成29年10月		

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意 見	今回の改善計画	
		10月	3月			
1	地域包括ケアシステムの構築方針	・分校地区こころまちセンターの周知活動を行い、早めの出会いに結びつける。 ・今後もサロンや集まりへの参加、小学生等と地域交流をしていく。	・サロンへの参加や地域交流会を行うことができ、その場で、町の気になる高齢者の相談や、本人からの相談がある。	・地域交流会への参加や分校地区婦人会などへの参加をしていき、地域へ周知活動を行った。	・ブランチのことを知ってもらいたいと思う。今後も各種会合や行事に声を掛けます。	・今後も分校地区の各町のサークルやサロン等に、出向いていきブランチの周知をはかる。
2	区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・地域の特性を知り、早めのつながりを作るための周知活動を行う。 ・社会資源については、加賀市全域のものから、地域限定のものがあるため、随時相談があった時には情報提供をしていきたい。そのため、地域の方から情報収集をしていく。	・周知活動については、実施はしているものまだまだ不足している。 ・社会資源については、運営推進会議などで地域の方から教えていただいたり、地域の方からの社会資源についての相談もみられている。	・周知活動を引き続き行っているが、今後も地域で役割を知っていただく必要性を感じている。 ・相談などを通じて、交通の不便性や食事面での不安などがあることなどが感じられた。	・我々も地域の社会資源の情報を伝えていくようにしたい。	・地区の軒下マップを作成し社会資源の見え易さを図り地域の社会資源を知る。
3	介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・民生委員や医療機関、介護事業者とのネットワーク作りをしていくために、定例会や研修会などへ参加をしていき、周知活動や情報交換をしていく。	・市が開催している研修会等に参加をし、周知活動は少しずつ行うことができるが、参加職員が決まった職員になってしまっている。 ・民生委員定例会には2カ月に1回参加をしている。	・研修会への参加やサロン、交流会などへ関わる職員を増やしていき、情報収集、周知活動が行えている。 ・去年の雪害を受けて、分校町での除雪講習会や独居高齢者への除雪についての確認を行った。	・ブランチのことを知ってもらいたいと思う。今後も各種会合や行事に声を掛けます。	・地区広報や町内回覧などにブランチの役割などを記載し周知する。また、サロンやサークル、民生委員の会合には今後も継続して参加し、顔の見える関係づくりをめざす。
4	介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・地域サロンへの参加を続けていき、身近な相談がある場所があることや、分校ブランチの役割を知っていただく機会を作っていく。	・地域の相談窓口があることへの周知活動はサロンやお祭りなどへの参加、民生委員の方との関わりで少しずつ知っていただく機会が作れている。	・地域ケア会議の開催は行っていないが、ケース検討会を行うことができた。 ・サロンやカラオケ会への参加などを通して周知活動を行っている。色々な世代の方に知っていただく機会についてはまだまだ少ない。	・我々の世代（50～60代）にはブランチの機能は徐々に知ってもらえるようになってきたと思われる。しかし、下の若い世代にはまだまだあまり知られていないように思うので、これからも祭り、婦人会、各種集會等の参加の声を掛けます。 ・これからは分からないことや聞いてみたいことがあれば何でも聞いてください。	・地域のサロンや交流会参加を定期的に行い困りごとの把握や分校ブランチの更なる周知のための活動を行っていく。
5	地域福祉コーディネーター業務について	・分校地区ならではの不安や困っていることを知ることで、情報提供ができるので、地域の困りごとを知り、情報提供していきたい。 ・ケアマネージャーや医療機関とのつながりを作ることで、情報共有をしていきたい。	・分校地区での相談が食事支援や交通での心配が多くみられており、相談があった時には情報提供ができている。ただ、新しい情報については収集があまりできていない。 ・医療との連携やブランチの存在を知っていただくなかで、地域のクリニックへの相談や病院への訪問があまり行っていない。	・交通の便が不便なことや食事提供などの相談があり、地域での社会資源へつなぐことができた。 ・医療との連携については研修会などを通して行うことができているが、まだまだ足りていない。地域のクリニックについてはブランチ活動の周知を行っていく。 ・ケアマネージャーからの社会資源相談が1件あり情報提供を行うことができた。	・気になっている高齢者のことをブランチに相談したら社会資源を紹介してもらえたのが良かった。我々も初めて聞くことだったので勉強になった。	・分校地区ならではの困りごと等の把握にも努めていきたい。病院や医師からも相談してもらえるようブランチ業務や活動の周知を図ってきたい。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	いらっせ松が丘	目指す姿	住み慣れた地域で安心して暮らせるように 「助け合える関係性・自分自身の健康づくり・場所とのつながり」を作り 「一人一人がつながり、もしもの時にも備えておける地域」となる
施設管理者	村上 弘 樹		
事業責任者	小林 美 紀		
ランチ設置年月	平成28年9月		

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意 見	今回の改善計画	
		10月	3月			
1	地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・住民を巻き込み地域で高齢者を支える取り組みについては、まずランチ地域を知る事が必要である。そのため、地域のサークルやサロンに参加して活動内容および参加者の様子を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各町のサロン、サークル毎に担当を決めて、訪問する事とした。作見地区元気はつらつ塾や松が丘おたっしや会には参加できたが、松が丘いきいきサロンとやおき健康クラブには行けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松が丘おたっしや会、作見地区元気はつらつ塾、やおき健康クラブに参加し、活動内容や参加者の様子を確認した。おたっしや会やいきいきサロンに地域の方をつないだ。 ・地域や民生委員からの相談にすぐに対応した。また、民生委員と協力して地域の高齢者の見守りを行っている。 ・個別相談から、地区での課題をさくみランチと共に考えている。(例えば、運転しなくなった時の買い物等についての資源の把握など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善計画は具体的にした方が良い。顔見知りになったあとはどうするのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・松が丘おたっしや会、松が丘いきいきサロン、やおき健康クラブに月に1回は参加し、顔見知りになり気軽に話せる関係になるように努める。
2	区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内で個々の相談から地区のニーズを考える。またそのニーズから、松が丘地区の地域ケア会議の開催を検討する。 ・訪問した人の事例検討を行う。(ブロック連絡会での事例検討内容を事業所内で振り返る場合もあり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・作見地区のニーズを考える事や地域ケア会議の開催はできていない。 ・事業所内の事例検討会もできていない。次のブロック部会で提出する事例について、事業所内の勉強会で事例検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの相談内容から作見地区のニーズをまとめた。ランチ勉強会での事例を事業所内で振り返りを行った。松が丘地区の地域ケア会議は行っていない。 ・システムから独居世帯数等を把握し、チェックリストで地区の高齢者の生活状況を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン等に参加した時に、気づいた町の情報をキャッチし、それを書き出してはどうか。その情報を振り返ると、町の状況だけでなく、地域の資源も分かるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各サロンへの参加時に利用者との会話の中から、町の情報をキャッチし、それを記録していく。(その記録の中に地区の資源が含まれているかもしれない。)
3	介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク(地域社会との連携及び専門職との連携)構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップの勉強会はブロック連絡会で開催する事を提案する。 ・モニタリング時期の確認は、連絡会等で他事業所の考え方を参考にし取り組む。 ・個別地域ケア会議は、必要な人に対して基幹型包括と協力して開催したい。 ・地域とのネットワークの作り方は、ランチ連絡会等で他事業所の方法を参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市が開催した軒下マップの研修に参加した職員からの伝達研修を行った。事業所の軒下マップ作りも行った。 ・モニタリングの時期については、ランチのマニュアルを参考にしている。 ・1人の方の個別地域ケア会議を行った。民生委員や警察の方にも参加して頂いた。 ・ランチ連絡会等で他事業所の地域との関わり方の報告があり、それを参考にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの時期は手引きを参考にしている。 ・ランチ連絡会で地域とのネットワーク作りの方法を検討した。 ・訪問した方の軒下マップは全員作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアは、地区会館に聞いてみてはどうか。ボランティアだけでなく、世話好きな方も調べてはどうか。個人でボランティア活動を行っている人はどうしたら把握できるのか？ロコミしか把握できないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区のボランティア活動を行っている個人や団体を調べる。その際、作見地区のまちづくり推進協議会や区長会に参加させてもらい情報を得る。軒下マップによく出てくる資源(世話好きな方など)を調べる。これらの方々と顔見知りになる。
4	介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担表にその日のランチ担当者を追加で記入し、管理者以外の職員がサロン等に参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担表に日々のランチ担当を決めたが、定期的に管理者以外の職員がサロン等に参加する事はできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担表でランチ担当者を明記した。管理者以外の職員が地区のサロンへは少ないが参加できている。地域の方に元気はつらつ塾やおたっしや会等の紹介を行い、初回は同行している。元気はつらつ塾やおたっしや会につながった方がいる。 ・勉強会や研修に参加してスキルアップに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンに定期的に参加して、つながっていくのが大きな目標ですね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者以外の職員も地区のサロンに行けるようにサロンごとの担当を決める。月に1回は各サロンに参加する。各サロンでどのような事を行っているのか把握する。職員にはサロンに参加する意味を説明する。
5	地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップは、さくみランチと協力して地区として作成し、その後は随時追加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作見地区資源マップは作成した。今後、内容を追加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作見地区の資源マップは、さくみランチと協力して作成した。高齢者からの相談には、地域の資源や本人の持っている資源を活用できないか検討している。申請は地区担当職員と相談してから行っている。近くの居宅からの資源の問い合わせに情報を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世話焼きさんをマップで塗って見たらどうか？これまでに作成した軒下マップを見て共通の場所や人がいないか調べてみたらよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップは、さくみランチと協力して地区として作成し、その後は随時追加していく。(継続)世話焼きさんの情報も追加していく。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	作見地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ハウスさくみ
施設管理者	横倉 ゆか
事業責任者	山口 紀久代
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	一人一人がつながり もしもの時にも備えておける地区
------	---------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能の利用者のうち、作見地区の利用者の近所の方には挨拶、声掛けは継続していき、さらに一歩踏み込み地域情報等を頂けるような会話に努める。 ・今年度は特定の職員がランチ活動をしてきたため、来年度は各サークルに2名の職員を配置し担当制とする。 ・サークルの日程確認を担当者が行うことで、職員一人一人がランチ業務を意識でき、サークル参加をきっかけに地域との関係づくりに努める。 ・各サークルの日時、担当者が分かるように、ミーティングノートに表示する。 ・サークルに参加する意味、目的を再確認するため、職員間の認識の統一を図る研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は行っている。声掛けや会話に繋がる出会いがあまりない。何度か顔を合わせる機会があれば、声掛けや会話を継続して努めていく。 ・各サークルの担当者を決め、毎月1か所サークル・サロンに出向いている。 ・各サークル・サロンの担当者は前回行ったことのある職員とサークル・サロンに行っている。ただサークル・サロンの日程確認、連絡は事業責任者が行っている。参加者に顔を覚えようよう、職員側から積極的に話しかけ関係作りに努めている。 ・各サークル・サロンの担当者及び日時が分かるように朝礼ノートと居室の壁に年間予定実行表に表示してある。 ・サークルに参加する意味・目的の研修を4月に行う事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は行っているが作見地区利用者の近所の方に出会う機会が少なかった。地域情報等を頂けるような会話まで広がらなかった。 ・下半期も月1回どこかのサークル・サロンに参加出来ている。今年度として、担当職員7人中6名は参加する事が出来た。 ・朝礼ノートや年間予定実行表を表示したのみで、うまく活用に至らなかった。 ・事前に計画が立てられなかったため、担当職員には当日に声を掛け、サークル・サロンに参加する事が多かった。 ・研修を行ったことでサークル・サロンに参加した際は積極的に話しかけるよう努力していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画表を作成されていたのはいい。 ・サークルやサロンは何か所あるのか？前にランチ職員が児童館の卓球教室に来たがその教室はサークルやサロンの中にカウントされているのか？卓球教室も社会資源だと思ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各町の担当が毎月1か所はどこかのサークルやサロンへ参加する事を継続していく。 ・年度初めにランチ業務に関わる年間予定実行表を作成する。 ・地区内で行っている趣味、スポーツクラブの方に、さらなる活動の場としてかがやき予防塾やボランティア等の情報提供を行っている。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・おたっしやプラン第7期計画でまとめた地区の実態（統計データなど）の資料を用いて、ランチ内で勉強会を開き、作見地区の変化と現状を職員で知る。 ・相談の方やチェックリスト訪問の方から課題を町ごとに見出していく。 ・町ごとにまとめた課題から、みえたニーズを職員で把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ研修の中でサークル参加の意味等やチェックリスト訪問等の実践に向けた研修がまず必要となり、地区の実態の研修までには至っていない。 ・サークル・サロン、地域に参加した際には町の現状の話など聞くことが出来、各サークルノートに記入はしている。相談票を画面化し職員間で共有することで意見交換しているが課題整理までの画面化が出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル参加の意味等、チェックリスト訪問の実践に向けた研修は内部研修で行えた。 ・地区の実態の研修は次年度行う予定。 ・月1回はどこかのサークルに参加している。サークル・サロンノートにサークルの活動内容など記入しているが課題につながる情報までは聞けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ときわ台は、40年前に開拓。山を削っている為、上に上れば上がるほど、家から道路までの段数が多い。これから、高齢者が増えていくので、買い物が大変になってくる。 ・作見町、小菅波町は、新しく開拓された場所があるため、以前から住んでいる町の人との交流が少ない。アパートも増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルやサロンに参加した際は1つ以上は地域の情報等を得て、サークルやサロンノートに記入する。 ・今期、相談内容から項目を分け、町ごとの課題整理をしていく。 ・サークルやサロン、相談に行った際は素早い情報共有を図るために朝礼にて口頭でも伝えていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型はつらつ塾の立ち上げから関わることが出来、まちづくり推進協議会の会長や民生委員の会長と顔なじみになることができた。更に地域型はつらつ塾の協力員として民生委員、保健推進員、食生活改善推進員、かがやき予防塾修了生等の方々とのかかわることができたので、ネットワークの構築の為にも運営推進会議だけでなく、地域型元気はつらつ塾を通してもつながりを継続していく。 ・訪問した際には軒下マップを作成しているが、活用はできていないので、ランチ内で事例検討を継続していき、定着に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつ塾を通して、ランチを覚えて頂き、地域の情報を頂いたり、情報交換をすることができた。新しいネットワークを構築する為にも積極的にランチから声を掛けさせて頂いている。 ・軒下マップの活用には至っていない。朝礼時に小規模利用者の軒下マップを見直す事で、軒下マップに対する理解を深めていく事が出来た。今後とも軒下マップを見直し、理解を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方、地域の方、食改の方からランチ対象者の情報を得る事が出来た。各々から住民へ相談窓口としての紹介や民生委員の方が相談に来られるなど、ネットワークの構築とランチの周知が少しずつ出来ている。 ・民生委員の方や地域の方からイベント等の参加へ声をかけて下さるようになった。 ・軒下マップの作成は訪問自体が職員の固定化してきているため、軒下マップを作成する職員も固定化してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチの説明の際に「相談はタダなのか？」という質問を聞き、無料相談であることや守秘義務があることをしっかり伝えることが大事だと改めて感じた。また、何でも聞いてくれと言われても話しくいので具体的な相談事例を何件か紹介してくれると相談しやすいと思う。 ・訪問の同行には、主の職員だけではなく看護師の同行もみられており、他の職員のかかわりも出来ている所は感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が2人体制でチェックリスト訪問に行き、軒下マップを作成する。 ・軒下マップの活用についての内部研修をおこなっていく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は各サークルに参加する職員を担当制とする。 ・ランチ職員が、サークルに参加した際の色々な情報（地域資源、一人暮らし、高齢者世帯、気になる方、サークル内の現状など）や感想をその場でノートに記入する。 ・様々な情報を意識的に聞くことで、知り得た情報を事業所内の月1回ミーティングで共有し、今後の相談の情報提供に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各サークル・サロンを担当制にしてサークルにも月1、2回は出向いている。その際の会話や町の情報はノートに記入し、コピーをミーティングノートに添付する事で職員間で共有している。同じサークルに繰り返し出向くことが出来ない為、サークル内の情報が多く、町の情報までは聞けていない。相談に活かせる情報までは得られることが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各サークル・サロンに担当職員が1回程度の参加であった。サークル・サロンノートへの記入はできているが、月1回のミーティングでの共有ができなかった。 ・少しずつ町の情報が聞けるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間のランチ業務に携わる中での知識や情報量の差はあると思うが、研修を通して努力している所なのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各町に担当職員の顔を覚えてもらえるようにサークル・サロンの参加を継続して行う。 ・作見地区元気はつらつ塾に参加したことの無い職員を参加させる。 ・年間計画を立て、サークル・サロン・はつらつ塾に職員全員が定期的に行く。 ・ブロック連絡会の事例検討、ランチ勉強会や内部・外部研修に参加し、職員のスキルアップを目指す。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップの作成は継続して取り組んでいく。 ・確認項目表を使い、まずは収集している資源を書き出していく。(H30.7月～) ・収集した書類、地図の整理をしていき、誰が見てもわかりやすいように作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップの作成は継続して取り組んでいく。 ・いらっせ松が丘と協力し、確認項目表に収集している情報をまとめた。情報収集は継続している。 ・収集した情報を、どのような視点で持っていくかを模索中であり、作成にまでに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作見地区の資源マップ作成について、いらっせ松が丘、地区担当と話し合った。 ・作見地区の理念から「備え」を資源マップの視点と考え、作成していくことを検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模の仕事をしなが、地区のいろんな日常に目を向けていってもらえると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報をランチ、小規模と共に活用できるよう見やすく地図を作成していく。 ・社会資源の「備え」に対しての情報収集は継続して行っていく。

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山中地区高齢者こころまちセンター
施設管理者	高田 君子
事業責任者	高田 君子
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	『地域に住んでいる誰もが気楽に話し合える仲間やホッとできる居場所がある』
------	--------------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・さろんの集い開催は、今年度も介護予防の場として継続し、ランチは、後方支援を行って行く。参加者には内容や準備等、役割を担ってもら。内容については、日頃の困りごとや気になることをお互い出し合い、一緒に考えたり講師役も得意なところを力を発揮できるよう促す。参加者自身の会であることを意識できるよう関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集い開催では、自分達の会であることを意識できるよう、その都度、参加者にはできることを積極的に促す等、役割について話をしている。しかし、現状事業所が主体となっており、開催当初は協力者の参加もあつたが、年齢層や活動力の違いからか参加が途絶えがちになった。現在の参加者は近隣の閉じこもりがちな方で、主になって動くのは負担が重いと言われた。協力員募集のチラシ配布の検討も行ったが、場の雰囲気や閉じこもりがちな方々が楽しみとしている場をなくすことはできない。毎回のお知らせから年間計画を配布し自主的に参加とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉じこもりがちな方の参加を目的に、集いを継続して行っている。参加者には自分達が企画・準備を行うものと意識していただいている。地域のニーズの把握には至っていないが、参加者個人の困り事を言い合える場になっており、検討する場にもなっている。また、参加者を通して近隣や知人の困り事を考える場になっている。初期相談においては個人からの相談もあるが、地区の民生委員や支所、社協、交番、居宅、商店等からもあり、事業所が周知されてきているように思う。相談対応の職員も増やす体制を行ったが、職員体制が整わず新たな訪問職員と同行訪問ができず、申請等手続きの流れを伝えられない。一人で自信を持って訪問に臨むことに躊躇がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集いにおいては2年続けてこれて来られる方も定着してきたこともあるため、難しいと思うが後方支援に切り替えていく時期にきているのではないかと。新年度になることから、この時期にそのような話をしてみるのも良いのではないかと。元気クラブの方に繋げていけると良いのではないかと。元気クラブに繋げるにあたり、初めに話をした、民生委員、町内会長にも話ができないかと。協力員の方に依頼するというお話しもあったかと思うがどうなったのか。参加している方々で今後どうしていくか話し合う必要はあると思う。なぜここに来れるようになったのかを聞く、いろんな方法を話して選択してもらうのも良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズの把握や地域の方との情報交換の場も目的の一部としてスタートした集いであつたが、高齢者の役割を考えた時に担ってもらえることはあると思われるので、再度、今後の集いのあり方について参加者と話し合いを行って行く。初期相談の対応する職員は増やす取り組みをしたが、新たな相談職員は申請等一連の流れを通してした経験が少なく、一人で訪問する自信が持てない。今後の流れ等については、事業所内で事例を交えて学んでいく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネート業務が円滑に行えるようサークルに参加する目的を考えたり、地域の資源を各自が把握することに努める。 ・地域から得た課題について地域ケア会議を開催し、皆で考える機会をもち、各団体や機関に働きかけ、機会もつ。構成メンバーや開催時期・目的等について地域より意見をもらい、今後日程調整を行う予定。今後早急に段取りを行うことに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議や地域ケア会議を通して地域の声を伺い、一人暮らしの方が安心して暮らすことができるよう各機関を巻き込んだケア会議の開催を検討しているが、実施できていない。また、まちづくりや地域の行事に参加し、代表者と面識を深める機会を得た。社会資源の把握という点では中堅研修の課題でもあつたため、再度職員で考える機会となり、社会資源台帳の更新も行うことができた。現在は資源マップ作成中で、今年度中に仕上げる予定。サークル参加は難しいが、個人の繋がりの地域資源をしっかりと把握することに努めることを申し合わせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の把握を目的に各サークルへの参加を予定しているが、業務の都合上難しい状況がある。しかし、どんな内容が参加している人に聞き、把握することを努めている。相談者の傾向から、地区ごとではあるが、冬場の総湯への行き帰りの移動手段、山間地域の買物や余暇活動の外出時等の移動手段、またそれに伴う高齢者の運転等、移動手段による地域ニーズが明らかになってきている。今後は推進会議で議題として挙げ、どのような人や機関を巻き込んでいくか検討中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル参加においては小規模の普通の業務をしながら、サークルに一人で出向くことは大変であると思う。ランチで相談のあつた方と一緒に出向くことを考え、一緒に見学として参加してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズの移動手段の課題については、推進会議の議題として挙げ、今後どのようなことから始めて話し合いを重ねていけば良いのか助言をもらいながら形のあるものにしていきたい。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に地域に出て住民、一人ひとりの声に耳を傾け、課題やニーズについて考える機会を大切にする。その上で地域ケア会議や圏域会議を継続して行い、問題提起や改善へと働きかける。 ・相談業務においては、事業所全体で進捗状況が把握できるよう、受付簿の作成を行い、随時必要な帳票の作成を行う。また、地区担当とも2週間に1度、進捗状況の報告やケースの情報の共有に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議の開催は必要時行っており、今回高齢者が安心して暮らせるまちづくりの一環として、隣近所への声掛けが広報を通じて取り組みができた。相談業務においては受付簿を用いることにより、訪問が必要な方の把握に努めることはできた。地区担当者との進捗状況の報告や情報の共有についてはその都度行うことに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの声も大切に捉え、認知症の方の病状の理解や気持ち等を説明する機会をもつた。軒下マップは関わった方全てで作成しており、地域の繋がりを把握するように努めている。また、集いの参加者にも趣旨の説明を行い一緒に軒下マップを作成する機会をもつた。医療機関の連携室や近医からの相談があり情報交換している。またケアマネジャーとの圏域会議も継続して開催し、地域の実状を話し合ったり、社会資源の情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、地区社協の職員、もしくは社協地区会長に運営推進会議に参加してもらってはどうか。町の情報を沢山もっていると思いますよ。会議参加者より、話の内容や問われていることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーとの圏域会議や地域の各機関とのネットワークは絶やさず継続していく。また、新たに地区社協やゆざや等、情報を教えてもらえる機関と繋がっていくことに努める。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチの活動、コーディネート業務について、ランチ・ブロック連絡会の事例検討会を通し事業所全体で取り組んでいく。 ・事業所内での勉強会を年3回企画し、全職員が地域包括ケアシステムや資源マップの必要性を理解する。 ・サークルの参加は、月ごとに担当を決め、目的を持ち参加する事や次回の担当者に繋げることができるよう地域資源簿の活用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討において、振り返りから気付きを得られるようブロック連絡会や事業所内においても開催の機会を設けている。事業所内での勉強会を年3回企画したが、現在開催には至っていない。今回研修参加の職員を中心に、新たにランチについて理解を深めていく予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内での勉強会は十分にできなかったが、大半の職員は研修会に参加することができ、ミーティングにおいて報告をする機会をつくった。基幹型との事例検討会において今後の方針について助言をもらう機会を得た。サークルへの参加は十分ではなかったが、地域資源簿は見直しをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな元気クラブ等のサークルがあるが、細かくどんなことをしているのかわかる表があると良い。活動内容を簡単に体操、物づくり、おおまかにわかる物がいい。地区によって地域意識の強いところもあるのでその地域ごとでいろいろと事情もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安易に介護保険サービスに繋ぐのではなく、どのような生活を送りたいのか意向の確認を行い、地域資源を紹介していく。紹介するにあたり、今まで同様、サークルに出向いたり、利用者で見学の機会をもつ等して、サークルの雰囲気や特徴を捉えていく。 ・月1回、山中地区のケアマネジャーと集まり情報共有をする山中圏域会議を開催している。ケアマネジャーが支援する中での課題も共有し、地区の課題の発見に努める。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネート業務について	<p>・軒下マップの追記を丁寧に行い、本人の資源やネットワークの活用など深める。また、まちづくり推進協議会や地域の機関につながることを行い、地域の情報を把握し、ランチとして各機関などから問い合わせなどの際、情報提供がスムーズに行なえるよう、地域資源台帳の見直しを行い、支援マップ作成につなげたい。</p>	<p>・高齢者の相談においては、支援内容を直ぐにあてがうのではなく、本人の力や意向、また繋がりなどを考え、支援できるよう意識している。再度の相談やチェックリスト訪問には以前の軒下マップ等を持参し追記できるようにしている。また、軒下マップを活用できるよう、本人と一緒に目標を考える事を行い、本人も積極的に日々の生活を行っていきけるよう進めている。ケアマネジャーとの圏域会議が定着し、情報交換の場があることで、地域のケアマネジャーからの問い合わせは少ない。ただ、ケアマネジャーを通さず本人からの問い合わせが時折ある。</p>	<p>・ブロック連絡会にてコーディネート業務の事例検討を行った。実践の報告しながら、間接支援の関わりを学んだ。地域資源としての様々なサークルが把握できていない。職員が各々把握しているサークルを誰が見てもわかるような一覧表の作成をしようとの声が挙がっている。</p>	<p>・サークルの一覧表を事業所で一から作成するのは大変であると思われるため、情報をもっている地区社協の方に協力を依頼してはどうか。山代ではそのような一覧表があるが、山代地区で使っている表のベースを許可をもって活用させていただいてはどうか。地域でも色々なサークル活動や世話係り等の活動をされている方もいるので、その方を巻き込んで表の作成をしてはどうか。地区社協の方にベースを作ってもらって、その後町の方々に意見をもらっても良いのではないか。一覧表があってもできあがった集まりの中に入っていくにくい方もいる。色々な方がいるので、その方にあつたことを伝えてあげられるといいですね。</p>	<p>・事例検討を通して軒下マップの活用を行い、コーディネート業務や間接支援について学んでいく。 ・運営推進会議や訪問時、地域のサークル一覧があるといいと意見があった。ランチの地域資源の把握のためにも、公の一覧に乗っていないサークルの把握も必要。一覧表の作成に向け、地区社協や各サークルリーダーと作成することができないか検討をしていく予定。</p>

平成30年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	勅使・東谷口地区高齢者こころまちセンター
施設管理者	中野 裕紀
事業責任者	北村 貴子
ランチ設置年月	平成31年1月

目指す姿	勅使地区：田畑などの役割を続けながら、交流の機会を通じて健康に対する意識が高まるまちづくり
	東谷口地区：健康に対する意識の高さを活かし、誰もが集える居場所のあるまちづくり

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1	地域包括ケアシステムの構築方針			・サロン等に来て、ランチの役割についてどんどん伝えてもらえばいい。	・地域の行事、地域おたっしやサークル活動に参加をして、参加者の皆さんと顔見知りになる。 ・ランチの周知活動を積極的に行い、少しでもちよくしランチの職員の顔を覚えてもらう。
2	区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針				・地域のおたっしやサークル活動に参加して、どのようなニーズがあるか把握する。 ・まちづくり推進協議会の会合等に参加して情報収集を行い、地域の課題把握に努める。
3	介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針			・2019年度から勅使地区の社会福祉協議会の活動に参加してもらい、見守り支え合いネットワークの座談会で意見交換をお願いしたい。その時に地域の中にどんな方がいるかも情報共有できれば良い。	・担当地区にある医療機関と協働し、健康に関する支援体制の構築を行う。 ・運営推進会議に地区関係者の参加を要請し、ランチの活動報告・意見交換を行い、ネットワークの構築を推進する。
4	介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針			・勅使町にはサロンがあるが、他の町ではあまり聞かない。元気はつらつ塾ができれば、他の町からも来たいという人がいるかもしれない。まずは、地域にどんな人がいるかを民生委員等に聞いて把握することからだと思う。 ・元気はつらつ塾は今必要な世代だけでなく、将来的には自分達の世代にとって必要になる時が来ると思う。今から土台作りをしていく必要があるのではないか。	・地域のおたっしやサークルに参加し、活動内容を把握する。参加していく中で、一緒に介護予防活動に取り組んでいく。 ・民生委員・区長等からまちの情報を受け、一人暮らし世帯の把握をして、早めの出会い・つながりを持ち、軒下マップの作成を行い、マネジメントにつなげる。 ・元気はつらつ塾が地区にとって必要かどうかを地区の方と一緒に話し合う。
5	地域福祉コーディネート業務について			・サロン、サークル活動から足が遠のいていない人がいる。介護サービスを受ける前に、家に閉じこもりがちな人達の受け皿があれば良い。	・担当地区にどのような社会資源があるか把握して、社会資源マップを作成する。必要な時に情報として提供できるように、一覧表にする。